乙女たちの戦車道ライフをサポートする専門誌

月刊戦車道 別冊

［完全保存版］白熱の第2回戦・全4試合 出場校と戦いを総括！

第41回冬季無限軌道杯 大特集号2



2022年10月、TVシリーズ放送開始から10周年！

GIRLS und PANZER 10th ANNIVERSARY

長年応援してくださっている皆様に感謝をこめて
『ガールズ＆パンツァー 10周年プロジェクト』始動！

バンダイナムコアーツ公式オンラインショップA-on STOREにて発売中！

月刊戦車道編集部 オリジナルグッズ



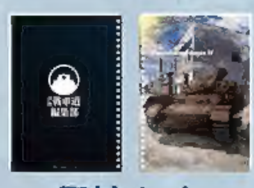
スツール缶入り グッズ全部セット
22,000円（10%税込）



スタッフ ウインドブレーカー
4,950円（10%税込）



缶ペンケース
1,650円（10%税込）



取材ノート
1,100円（10%税込）



マルチバッグ
4,400円（10%税込）



10周年記念ロゴ ピンバッジ
1,650円（10%税込）

A-on STORE

詳しくはこちら https://a-onstore.jp/shop/garupan/

※画像はイメージのため実際の商品とは異なります。数には限りがあるため売り切れの際はご了承ください。

月刊戦車道別冊

第41回冬季無限軌道杯 大特集号2

第2回戦・全4試合 出場校の活躍と戦いを完全網羅！



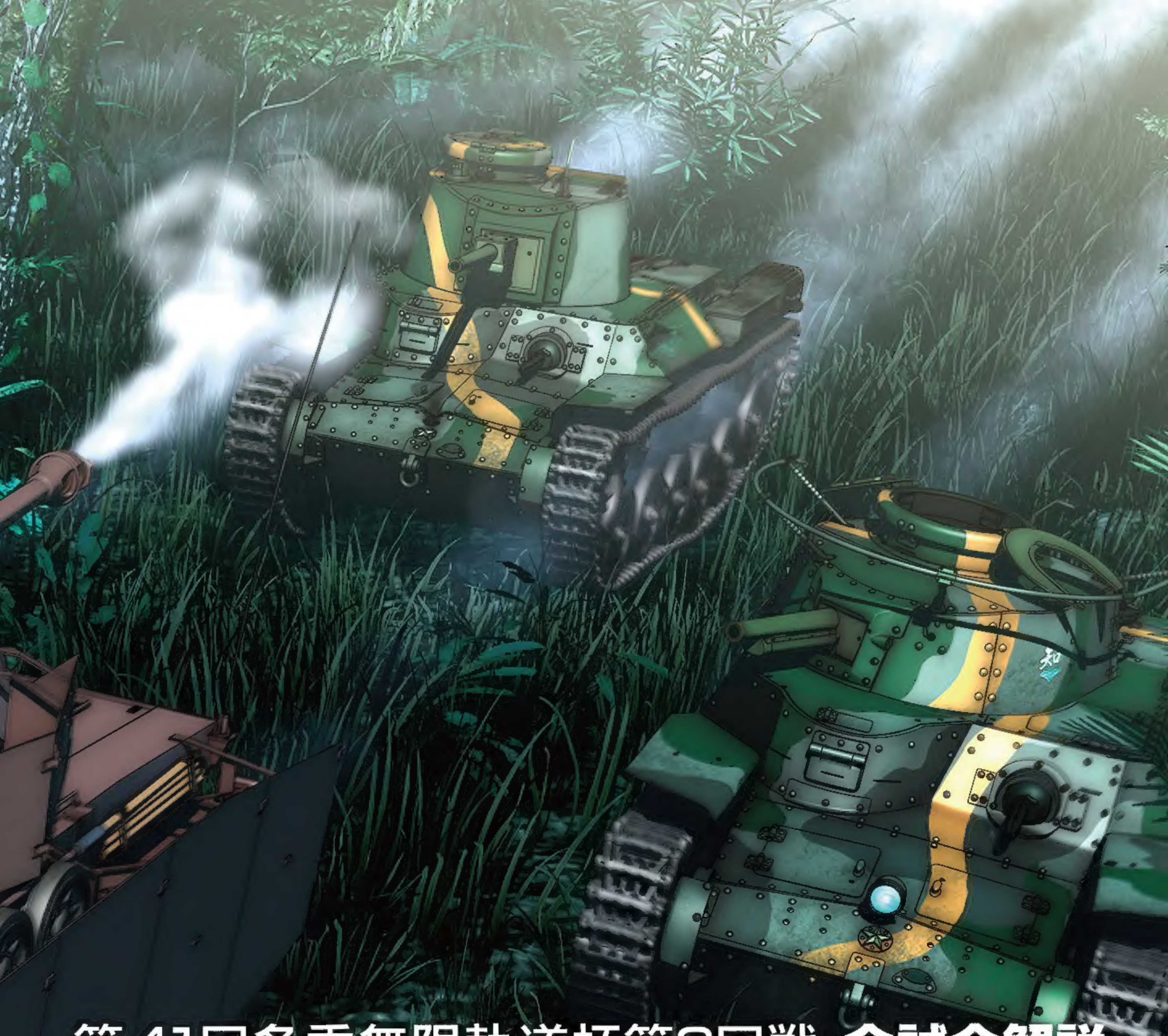
イラスト
表紙／原画：伊藤岳史　仕上：原田幸子　特効：古市裕一
美術：アートスタジオ・ザオ　監修：杉本 功

P4-5／3DCG：李 懿文（STUDIO カチューシャ）
CGディレクター：柳野啓一郎　色彩監修：原田幸子

P10-11／原画：伊藤岳史　仕上：原田幸子　特効：古市裕一
美術：アートスタジオ・ザオ　監修：杉本 功

P16-17／原画：伊藤岳史　仕上：原田幸子　特効：古市裕一
美術：アートスタジオ・ザオ
3DCG：李 懿文（STUDIO カチューシャ）
CGディレクター：柳野啓一郎

P22-23／原画：伊藤岳史　仕上：原田幸子　特効：古市裕一
美術：アートスタジオ・ザオ
3DCG：李 懿文（STUDIO カチューシャ）
CGディレクター：柳野啓一郎



第41回冬季無限軌道杯第2回戦 全試合解説

第1試合 知波単学園（千葉）×大洗女子学園（茨城）

試合会場は会場の上下に小川が流れ、中央部に小高い丘があり、他に数か所丘が点在、それ以外は深い湿地帯とぬかるみ、更には沼が点在しており、丈高い草と見通しが効かないほど密に生い茂った熱帯雨林からなっている。こうした地形であるため、視界は悪く、遠距離砲戦には全く向いていない。それどころか不期遭遇戦が多発する可能性が大きく、単純な戦車の性能よりも、索敵能力や欺瞞能力の高さ、相手の行動を読む力が重視されることになる。そのため、大洗女子学園側が防御力に劣る知波単学園を遠距離から仕留めるのは難しく、逆に知波単学園側が密かに接近するのも不可能ではない。また足元の悪さからポルシェティーガーなどの重量級戦車は移動に苦慮すると思われるため、思わぬ車輌が活躍する可能性がある。



知波単学園（千葉）

Chi-Ha-Tan Academy

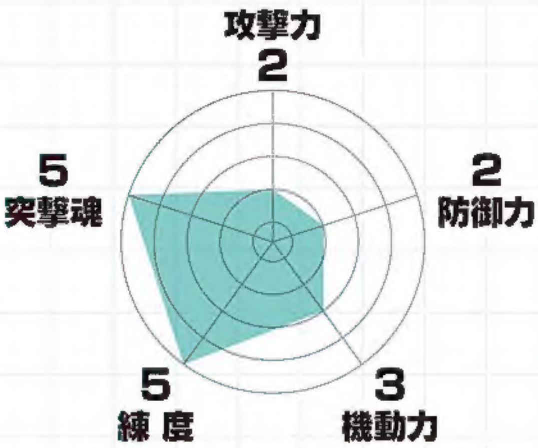
戦力分析



知波単学園の主力戦車は九七式中戦車である。18.4口径57ミリ砲を装備した旧砲塔型と、より初速を向上させた48口径47ミリ砲を装備した新砲塔型があり、前者が4輌、後者が3輌参加している。元々対戦車用の車輌ではない15トン級の小型戦車で、装甲も防楯は50ミリあるが、それ以外は8～25ミリしかなく、ぎりぎり37ミリ砲を防げればいい程度の防御力である。だが実際には37ミリ砲に対しても不十分で、大洗女子学園の車輌の大部分の攻撃で撃破される可能性が大きい。攻撃力も、旧砲塔型は前述の大洗女子学園の八九式中戦車とほぼ同等、新砲塔ではタングステン徹甲弾相当を使用すれば、理論上は200メートルで80ミリ、500メートルで70ミリ程度の装甲を貫徹可能となっている。したがって、Ⅳ号戦車の正面は難しくても側面からの撃破は可能である。他には37ミリ砲を搭載し、最大12ミリの装甲を持つ九五式軽戦車が1輌、そして九五式軽戦車をベースに水陸両用戦車とした特二式内火艇が2輌参加している。これらの主砲でも肉薄すれば大洗女子学園の車輌の側面や後方を撃破するのも不可能ではない。

使用車輌数：10輌

九七式中戦車(旧砲塔)×4
九七式中戦車(新砲塔)×3
九五式軽戦車×1
特二式内火艇×2



注目戦車：特二式内火艇

注目すべきは、水上航行が可能な特二式内火艇であろう。各校とも水中走行可能な車輌や、渡河能力を有した車輌を保有している高校はあるが、完全に浮上して移動可能な車輌で高校戦車道に参戦しているのは、現時点では本車だけである。前述の通り九五式軽戦車をベースとしているため、装甲は最大でも12ミリ、主砲は37ミリ砲と貧弱だが、それでも陸上を37km/hで走行し、水上を9.5km/hで自在に移動可能なのは、試合会場次第によっては非常に有効な戦力となる。また、水上航行用に前後フロートが付いているが、これが無くても浮いて航行することもできる。





西 絹代隊長 試合前コメント

高校王者である大洗女子学園の皆さんに負けてもともと、胸を借りるつもりで参りましたが、西住さんより「勝ちたいと思い続けたからこそ今の自分たちがある」、とのお話を頂きました。我々もそれを見習い、全力で大洗をぶち倒します！



注目選手



隊長 西 絹代

やはり隊長である西絹代選手が注目株筆頭であろう。練度も士気も忠誠心も極めて高いが、それ以上に勇猛果敢で猪突猛進な選手たちをどのように指揮し、戦術に組み込むかが見ものである。



福田はる

目立たないが注目すべきは、九五式軽戦車車長の福田はる選手。最近大洗でよく目撃されており、積極的に大洗の選手と交流し、その強さを学んでいるとの情報が入っている。その成果が生かせるか楽しみだ。

大洗女子学園（茨城）

Oarai girls' high school

戦力分析



今更言うまでも無いが、大洗女子学園は実に多彩な戦車を揃えている。第1回戦から参加した新車輌のMk.Ⅳを含め、それぞれの戦車の生産国は、ドイツ、アメリカ、イギリス、フランス、チェコ、日本であり、エンジン形式も砲弾も操縦法も無線機も何もかもが異なる。ちゃんと動くようにする整備の手間と、実際に動いても揃って行動する難しさは相当な物だろう。だが、乗員のほとんどが戦車道未経験者だったからこそ、それをものともせずに運用していると考えられる。攻撃の主軸は夏季大会と同じ、56口径88ミリ砲を備えたポルシェティーガーと、48口径75ミリ砲を備えたⅣ号戦車とⅢ号突撃砲F型、38(t)戦車ヘッツァー改造型のドイツ戦車となる。特にポルシェティーガーでは高速徹甲弾を使用すれば100メートルで171ミリ、1,000メートルでも138ミリの装甲を、75ミリ砲は100メートルで143ミリ、1,000メートルで97ミリの装甲を貫徹可能であり、最大でも25ミリ程度の装甲しか持たない知波単学園の車輌は余裕で撃破可能。しかし、今回の試合会場は遠距離砲戦が難しく、この砲力を効果的に生かせるかがポイントとなるだろう。

使用車輌数：9輌

Ⅳ号戦車H型×1
ポルシェティーガー×1
Ⅲ号突撃砲F型×1
ヘッツァー×1
B1bis×1
M3中戦車リー×1
八九式中戦車甲型×1
三式中戦車×1
Mk.Ⅳ戦車×1



注目戦車：八九式中戦車

知波単学園の主力である九七式中戦車、それよりも一世代前となる八九式中戦車を注目戦車としたい。中戦車とは言うが、実質的には軽戦車であり、装甲は最大でも僅かに17ミリ、主砲は18.4口径57ミリ砲では350メートルで25.7ミリ、1,400メートルで20.5ミリの装甲を抜く程度の威力しかない。最大速度も本来整地で25km/hしか出ないはずで、通常なら使い所に悩むような車輌である。しかし、大洗女子学園では乗員の極めて高い練度のお陰か、それとも整備を担当しているメンバーによって相当改造が行われているのか、高い不整地走破性を誇る。威力不足は否めないが高い命中率を誇り、偵察や攪乱に縦横の活躍をしている。類似した車輌との激突でどのような戦いを見せるか興味深い。





河嶋 桃隊長 試合前コメント

第1回戦では初対戦の油断があった。だが知波単学園は味方として共に戦ったエキシビションマッチ、大学選抜戦で手の内はわかっている。相手の気迫に臆せず我々のペースを保てれば勝利できると考えている。



注目選手



磯辺典子

まず一人目は、前述の八九式中戦車車長である磯辺典子選手。撃破こそ少ないものの、圧倒的なチームワークを作り上げ、トリックスターとして活躍を見せる腕前は特筆すべきものがあり、今回も見どころとなるだろう。



角谷 杏

もう一人は、前大洗女子学園生徒会長である角谷杏選手。基本的に何もしていないように見えるが、要所で見せる高い能力と判断力は幾度となくチームの危機を救ってきた。無限軌道杯でもその活躍を期待したい。

試合展開













試合前

試合当日の気温は34・3度、湿度は80%と大変に不快指数の高い状況であった。その中で熱帯雨林を模した試合会場で戦うのは、双方ともに体力を相当消耗すると考えられる。また視界が悪いために、なかなか撃破ができないとなると、試合時間も長期に渡り、そこでも体力と判断力の低下が考えられる。普段から粗食に耐えて身体づくりをしている知波単学園の生徒たちはこういった状況には強いと思われるが、大洗女子学園に関しては未知数で、どのような対処をするか注目すべき点であろう。試合前の段階でも整然と隊列を組んで駐車している知波単に対し、大洗の車輌はまとまりなくバラバラで、両校のスタイルの違いが良く出ている。生真面目で堅物、勇猛果敢だが猪突猛進な知波単の挑戦を、自由でフランク、かつ奇策と各人の能力を最大限まで引き出したことによって夏季大会に勝利した王者大洗がどのように受け止めるか、見どころが多い波乱に満ちた試合が予想される。

前半戦

大洗女子学園はセオリー通り中央の高地を目指して進撃を開始する。だが視界と足元の悪さから速度は上がらない。その間に知波単学園は速やかに移動し、Mk.Ⅳ戦車が高く掲げていた海賊旗を発見、機銃攻撃を行う。前進して応戦を試みた同車に対し、知波単はそのまま突撃を敢行すると思われたが、足踏み突撃という新戦術によってMk.Ⅳの撃破に成功し、サヨナラ突撃によって戦場を離脱した。その後、大洗が高地に接近するたびに知波単は側面から細かく接敵しては一撃離脱を繰り返し、高地への移動を阻止しつつ、大洗の消耗を狙う。更に夕方になって雨が降り出し、ますます足元は悪くなっていった。消耗した大洗は開けた池への移動を開始するが、それこそ知波単の狙いであった。そこは特二式内火艇部隊が水中潜伏していた地点であり、夜陰に乗じて奇襲を敢行。知波単本隊も時間差で奇襲に入った。特二式内火艇の攻撃によりⅢ号突撃砲を庇ったB1bisが撃破。本隊は大洗フラッグ車に集中砲火を浴びせ、ガードに入ったポルシェティーガーの履帯を切断、そのまま撃破し、大洗最大火力の排除に成功した。しかし知波単も新砲塔1輌を喪失する。退避する知波単を大洗女子は追撃。反転攻撃を狙う知波単を大洗は散開して回避、形勢を逆転させるべく、知波単に追撃させて有利な地点への引き込みを図った。

後半戦～決着

大洗女子学園に谷底の泥濘地に引き込まれた知波単学園。一か八かの突撃を具申する隊員たちに対し、なんと西隊長は知波単の伝統を否定しかねない撤退を宣言する。再び大洗が追撃する態勢となったが、知波単は部隊を三つに分け、大洗に向けて左右から吶喊を行い、一撃離脱を繰り返す。その真の狙いは大洗の精神的支柱であるあんこうチームⅣ号の撃破であった。度重なる知波単の吶喊により分散を余儀なくされた大洗は再合流を図るが、水路を利用した特二式の奇襲や、偵察に出た八九式が九五式に抑え込まれてしまうなど苦しめられ、続々と大洗戦車は脱落。Ⅳ号は孤立させられてしまう。知波単の執拗なⅣ号追撃に対し、大洗はⅣ号のライトを点灯。あえて自らの位置をさらす行動をいぶかしむ知波単であったが、追撃を続行、ついにⅣ号を追い詰め、撃破することに成功する。大洗のエース撃破に歓喜する知波単、しかしこれは大洗の罠であった。

歓喜に沸く一瞬の隙に潜んでいた大洗フラッグ車ヘッツァーが知波単フラッグ車に突撃、撃破。

突撃をモットーとしていた知波単が突撃で敗れる皮肉な結末となった。

試合結果

× 知波単学園（千葉）

×

○ 大洗女子学園（茨城）

ターニングポイント



やはり勝負を決めたのは、大洗女子学園のIV号戦車が自らを囮として知波単学園を引き付け続けたことであろう。相手の狙いを察知してからのライト点灯という鮮やかな切り返し、突然のポジションチェンジにも動じない各乗員の高い能力など、大洗の絶対的なエースとしての力を遺憾なく発揮し、勝利を手繰り寄せたといえよう。

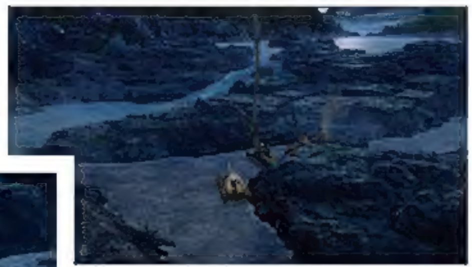
試合のポイント

今回の試合は会場に恵まれたことと、新たな戦術を積極的に取り入れたことによって、知波単学園が勝利してもおかしくない一戦だった。実際、大洗女子学園はフラッグ車の1輌を残して全滅、それに対して知波単は九七式中戦車旧砲塔、新砲塔各1輌、九五式軽戦車1輌が残存している。これは極めて高い練度を持つものの、突撃戦術一本だった知波単が戦術の幅を取るとどれだけ強敵かということを示し、それは弱小戦車であっても運用方法と作戦次第で勝利はあるという、夏季大会で大洗が見せたのと同じ可能性を見せたと言えよう。この一戦はその可能性同士がぶつかり合った好ゲームであった。

しかし一方で、IV号撃破に固執したためにフラッグ車を放念した知波単のボーンヘッドという見方もできる。それは間違いない。

だが、IV号を孤立させた際の戦況は明らかに知波単が押していたのもまた事実なのだ。

IV号不在の大洗。敗れたとはいえ潜在的な大洗の弱点を突き、見事に追い詰めた知波単にもまた惜しみない称賛を贈りたい。





両校隊長試合後コメント

大洗女子学園：河嶋 桃

まさかこんな展開になるとは。生きた心地がしなかった……

だが勝利は勝利。次戦どんな相手が来ようとも我々らしく一致団結して勝ち抜きたい。

知波単学園：西 絹代

結果は、残念です。ですが、大きな収穫を得た一戦でもありました！お世話になった西住さん、大洗さんにも強くなった我々を見せることが出来、多少なりとも御恩がお返しできたと思います！！

ワンポイントコラム　同じ弾が敵味方乱れ飛ぶ

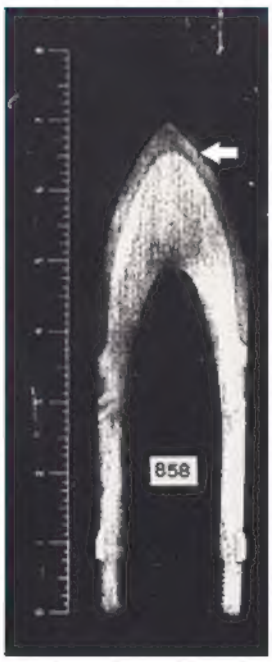
文：国本康文

戦車砲弾は強靭で硬ければ硬い程、敵戦車に命中したときの威力が増します。ここからが微妙な所なのですが、砲弾全体があまりに硬すぎると、砲弾がガラスの様に割れて威力が無くなってしまいます。そこで砲弾の先端の表面だけ硬くして、中身は強靭にというのが戦車砲弾の目標です。対する戦車も装甲の表面を硬くして戦車砲弾の先端を砕き、装甲の中心部は強靭にして砲弾の貫通を防ぐのです。まさに矛と盾、「矛盾」の世界です。

さて砲弾に使う鋼は真っ赤に焼けた高温状態で、水や油の中に入れて瞬間的に急冷すると焼き入れされて硬くなります。砲弾全体を火の中で真っ赤に焼いて、全体を急冷すると砲弾全体が硬くなり、前述のように装甲板に当たっただけで全体がガラスの様に壊れてしまい、脆くて使えません。

そこで更に一工夫して砲弾先端に強い火炎を当てて、砲弾先端だけ真っ赤に焼いた後、水に入れて急冷すると砲弾先端の表層だけが焼き入れされて硬くなります。敵戦車に砲弾が命中したとき、砲弾先端が硬いので装甲にぐさりと突き刺さるのです。突き刺さったあとは強靭な砲弾胴部が貫通していく仕組みです。

実際の九七式中戦車（旧砲塔）の九七式57ミリ戦車砲の砲弾を二つに割って断面を腐食して観察したのが掲載した写真です。矢印で示す砲弾表面だけが硬くなっているので黒く見えます。ちなみに、知波単学園の九七式中戦車（旧砲塔）と大洗女子学園の八九式中戦車甲型は砲の型式は九七式と九〇式で違いますが、砲弾は九二式徹甲弾で共通ですので、試合の時には、敵味方に同じ弾が乱れ飛んでいることになります。



九七式57ミリ砲の戦車砲弾の断面
矢印で示した砲弾先端の黒く見える所が焼入層（硬くなっている所）
写真提供：国本康文



第41回冬季無限軌道杯第2回戦 全試合解説

第2試合 サンダース大学付属高校(長崎) × 継続高校(石川)

第41回冬季無限軌道杯第2回戦第2試合は、サンダース大学付属高校と継続高校の試合となった。単純な戦力と総合力で考えればサンダースに軍配が上がるが、ミカ隊長率いる継続は、優れた操縦技術と射撃能力を存分に活用した神出鬼没な奇策によって、戦力以上の善戦を繰り広げている。物量を背景に正々堂々としたスポーツマンシップ溢れる戦いを好むサンダースが継続の奇策をどのようにしのぐのか、逆に戦力に優れるサンダースのシャーマン軍団の強大な圧力を、継続が如何にしてかわし、自分たちの得意なフィールドへ持ち込むのか、その丁々発止の駆け引きが見どころとなるだろう。





サンダース大学付属高校（長崎）

戦力分析



サンダース大学付属高校は、シャーマン75ミリ砲搭載型8輌、同76ミリ砲搭載型1輌、シャーマン・ファイアフライ1輌と、突出した部分は少ないが全車が高校戦車道においては平均以上の性能であり、良好な稼働率と層の厚さから来る高い練度と士気、優れた通信索敵能力には特筆すべき点がある。主力である75ミリ砲搭載型は攻撃力にやや難があるが、M61徹甲弾を使用した場合、1,000メートルの距離で86ミリ、3,000メートルでも60ミリの垂直な表面硬化装甲を貫徹可能で、継続高校の最大25ミリしか装甲の厚みが無いT-26や、僅か16ミリのBT-42はアウトレンジから容易に撃破可能である。

使用車輌数：10輌

シャーマン75ミリ砲搭載型×8
シャーマン76ミリ砲搭載型×1
シャーマン・ファイアフライ×1



注目戦車：シャーマン・ファイアフライ

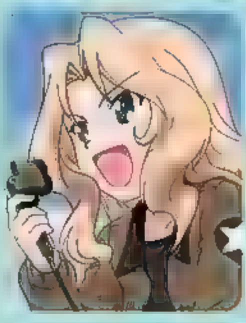
シャーマン・ファイアフライは、通常徹甲弾でも高い攻撃力を誇っており、当たりさえすれば、高校戦車道に参加している多くの戦車（一部の重装甲の戦車を除いて）をほぼどこからでも撃破できる。しかも、砲手は高校トップクラスの腕を持つナオミ選手であり、まさに鬼に金棒と言った所だろう。サンダース大学付属高校では、本車輌を後方に配置して温存する傾向があるが、これは発砲炎が激しく、周囲から非常に目立つことと、その影響で連続砲撃が難しいからだとも考えられている。そのための運用方法と考えられるが、その砲力をどれだけ活用できるかが注目ポイントであろう。





ケイ隊長 試合前コメント

継続高校。ミステリアスなところがあるけど、なかなかの強敵ね。ちょっとみほの大洗女子学園と似ているかも。でも私たちサンダースも夏季大会とは一味違うわよ。ベストを尽くして勝利するわ！

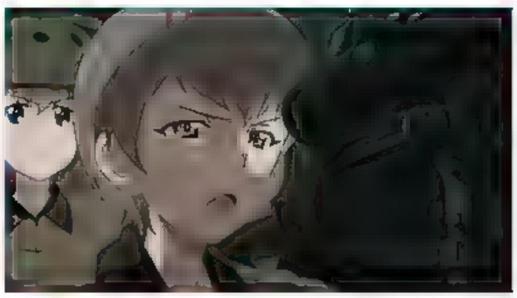


注目選手



副隊長 アリサ

今回注目するのは、実質的な指揮を任されるアリサ副隊長だ。最前線を好むケイ隊長を作戦面で支えてきた彼女だが、来年を見据えての指揮委譲が予想される。その未知数の指揮能力に注目したい。

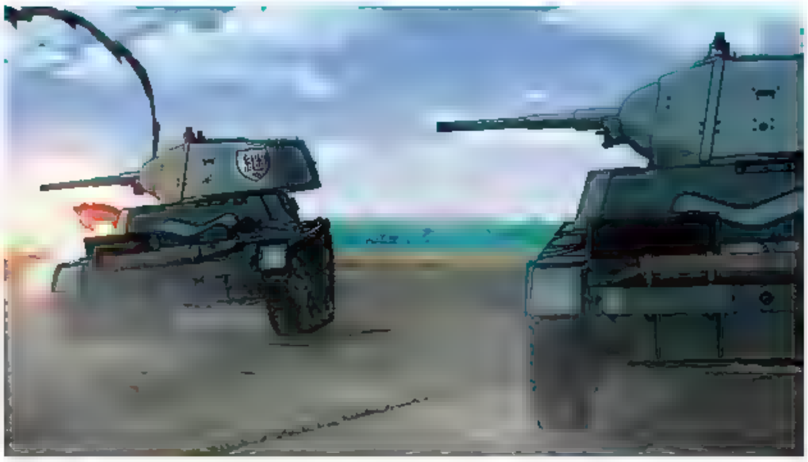


副隊長 ナオミ

そしてもう一人は、同じく副隊長のナオミ選手。高校戦車道でも屈指の砲手として、過去にベストスナイパーにも選ばれたほどの腕前であり、ファイアフライによる遠距離砲撃でどれだけの撃破を積み重ねるか注目である。

継続高校（石川）

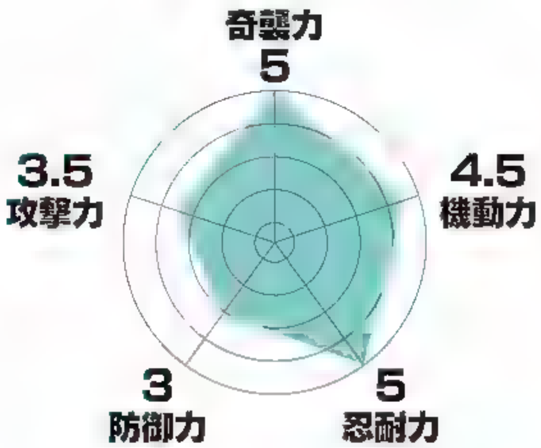
戦力分析



継続高校はT-26軽戦車1939年型をベースに火炎放射戦車としたOT-133、それを再び戦車に改造した車輌が多くを占めている。初期の生産型を除き、操縦性と信頼性が高くメンテナンスが容易であるが、防楯25ミリ、他6～15ミリと貧弱な装甲に、エンジンパワー不足から軽戦車の割には低速なのがネックであった。それでも同時期、同様の戦車が機銃か37ミリ砲を搭載していたのに対し、45ミリ砲を搭載しており、高速徹甲弾を使用すれば500メートルで64ミリ、1,000メートルで40ミリの装甲を貫徹可能で、肉薄すればM4シャーマンの車体側面や後方を撃破するのも不可能ではない。隊長車であるBT-42はBT-7快速戦車にQF4.5インチ榴弾砲を搭載した自走砲で、履帯を外せば70km/h以上発揮可能な快速を生かした神出鬼没な動きが特徴である。しかし試合会場にいつの間にか現れ、いつの間にか消える継続高校は選手、戦力にしてもベールに包まれ、不明な点も多い。そのベールが脱がされるときはいつなのか、そちらも注目である。

使用車輌数：10輌

T-26×8
BT-42×1
不明×1



注目戦車：T-26軽戦車

今回注目すべき戦車は、継続高校の戦力の大部分を占めているT-26軽戦車である。10トン程度の車体のため、装甲はあって無きが如し、サンダースの主力である75ミリ砲搭載型シャーマンの攻撃は、例え3,000メートルの距離からでも当たれば貫通されてしまう。エンジンパワー不足で最高速も低いが、軽量な車体から来る機動力と巧みな操縦技術を生かして、直撃を避け続けることができるかどうか、そこが見所になるだろう。更には、恐らく搭載数が少なく、ここぞという時しか使わないと思われる高速徹甲弾なら500メートル以下でシャーマンの車体側面や後方、当たり方次第では正面から撃破も夢ではない。高い練度の射撃も注目すべき点である。



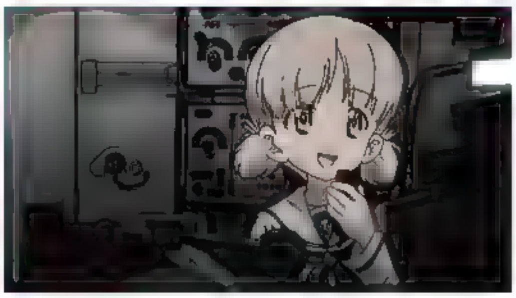


ミカ隊長 試合前コメント

相手の対策？それも大切なことかもしれないけど、本当に大切なのは自分たちの出来ることと出来ないことをちゃんと知ることなんじゃないかな？

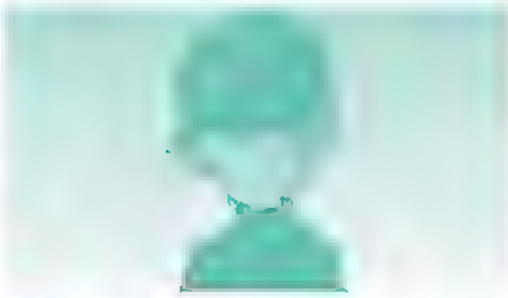


注目選手



アキ

前号では隊長車で華麗な運転を行うミッコ選手を取り上げたが、同車のもう一人の乗員であるアキ選手も興味深い。哲学的で意味深長なミカ隊長の言葉を理解し、装填と砲撃の一切を取り仕切っている腕前は中々のものであろう。



Unknown

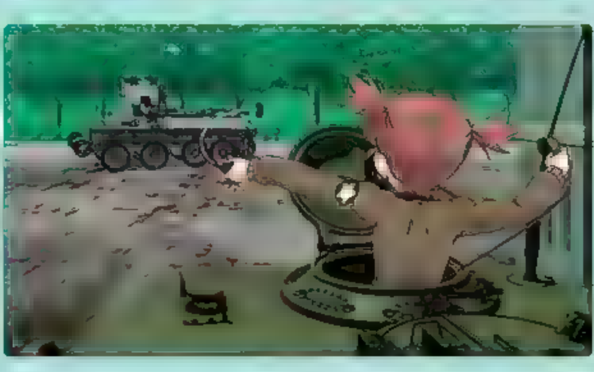
継続高校には「白い魔女」と異名を取る選手がいるという風のうわさがあるらしい。この謎に包まれた選手が今回で明らかになるのか、注目である。

試合展開













試合前

今回の試合は2700メートル級滑走路を持つコンクリートを敷き詰めた廃飛行場（24の文字が読み取れることから、北から東に60度、反対側は240度傾いた配置になっている）を模し、更に片側に山がある会場で行われた。そのような見通しの極めて良い会場であり、山以外は平坦で遮蔽物も少ない。奇襲が得意な継続高校にとっては非常に不利であり、下馬評としては総合力に勝るサンダース大学付属高校が8対2で優勢であった。対策がなければサンダースの遠距離攻撃によって、継続は近寄ることも出来ず各個撃破されるワンサイドゲームになるだろう。逆に継続にとっては、如何にして広大な滑走路に出ないようにして、格納庫などの遮蔽物を上手く利用し、一丸となって動くと思われるサンダースにヒット・アンド・アウェイを仕掛けるかが、重要となる。しかしサンダースもそれは織り込み済みで、ファイアフライによる阻止攻撃も見どころとなると思われる。

前半戦

予想通り滑走路を挟んでその左右での撃ち合いとなった。継続高校はいち早く速度を生かして建物群の影へと移動、遮蔽物を利用して装甲の薄さを補おうとする。それに対して、サンダース大学付属高校は装甲を生かし、後方にフラッグ車とその護衛を置きつつ、それ以外の車輌が横隊を組んで砲撃を行った。継続は正面で撃ち合いを行うと同時に、2輌のT-26に会場外縁すれすれを迂回させ、フラッグ車の側面を狙う。シャーマン戦車の車体側面は38ミリしか装甲が無いため、500メートル以内に接近できればT-26でも撃破の可能性がある。だが、サンダースも直ちに建物に隠れているフラッグ車に向けて突撃を敢行、建物から追い出された車輌をナオミ選手のファイアフライが待ち伏せると言う必勝の構図となった。しかし、継続も分散し、様々な手段で身を隠してサンダースを撹乱する。これによって、サンダースも分散を余儀なくされ、更に装甲と砲力を生かすのが難しい建物の中に入りこむ展開となった。

後半戦～決着

格納庫に隠れた継続高校のフラッグ車、BT-42は速やかに履帯を外し、装輪走行に切り替える。装輪状態ならば最大速度70km/h以上と、高校戦車道で使用可能な戦車の中でも屈指の快速を誇る。BT-42を手足のように操るミッコ選手は、試合会場を縦横に疾駆し、サンダース大学付属高校のアリサ副隊長搭乗のフラッグ車を中心とした陣形を崩していく。更に隠れていた3輌のT-26が側面から奇襲攻撃を行い、フラッグ車の護衛の1輌が撃破され、フラッグ車が危機に陥るが、救ったのはナオミ副隊長。ファイアフライの遠距離砲撃が継続の狙いを寸断した。更にはケイ隊長率いる5輌が救援に駆け付け、再び形勢は逆転。サンダースは6輌が前衛となり、後衛にフラッグ車を置いて盤石の態勢でBT-42を追撃する。滑走路の端まで追い詰めて勝利は確実になったかと思われたが、そこで試合開始から山に潜伏していた継続の「白い魔女」ヨウコ選手の超長距離からの一撃が、フラッグ車に命中。正攻法では勝てないと踏んだ継続が、全てのT-26、いやフラッグ車自らも囮として、サンダースを死地へと引きずり込んだ捨て身の戦略の勝利と言えよう。

試合結果

× サンダース大学付属高校（長崎）

×

○ 継続高校（石川）

ターニングポイント

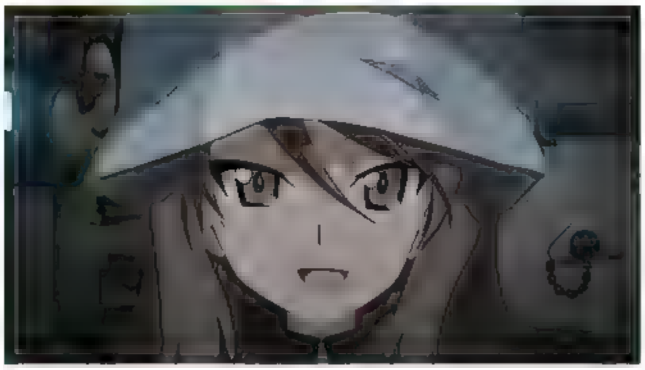


やはり継続高校が、フラッグ車であるBT-42を囮として視界の悪い建物群の中へとサンダース大学付属高校を引き込み、その後も快速を活かした機動戦で残り車輌数を把握させずに、ヨウコ車の狙撃ポイントへ誘導した点であろう。操縦やサンダースの動きの読みを、僅かでも間違えば逆に自分たちが撃破される危険もあった作戦を、大胆な動きによって成功させたことが勝利を引き寄せたと言えよう。

試合のポイント

この試合、変幻自在の継続高校に翻弄されたサンダース大学付属高校という見方が大勢を占めると思われるが、サンダースは夏季大会より長足の進歩を遂げていた。分かたれた部隊同士は、お互い適切な距離を保ちしっかりと連携。ケイ隊長も前線で突出しすぎることなく、周りの状況を把握し、指示を出し続けていた。サンダースの強みである大戦力にふさわしい組織力の高さであった。しかし継続の狙いすまして放たれた一撃、まさに「魔弾」によってすべてがひっくり返された。殲滅戦であったならば間違いなくサンダースの勝利であっただろう。しかし今回はフラッグ戦。一撃で勝敗が変わってしまうフラッグ戦の恐ろしさを再認識させせられる試合となった。





両校隊長試合後コメント

継続高校：ミカ

冬を耐えて忍ぶ花は小さいけれど、とても綺麗なんだ。でもそれはよく探さないと見つからない。そんな花があってもいいんじゃないかな。

サンダース大学付属高校：ケイ

いやー、見事にやられちゃったわね。来年必ずリベンジするわ！　と言いたいところだけど、卒業しちゃうのが残念ね。でもナオミやアリサたちにはいい経験になったと思うわ。来年のリベンジ、期待しているわよ！

ワンポイントコラム　フィンランドと日本

文：梅本 弘

日本人にとってフィンランドは遠い国である。「でもね、隣の国だよ。間にたった一つの国を挟んだだけの」これはフィンランドの元軍人から言われたことだ。フィンランド陸軍はフランスのルノーFT17、英国のビッカーズ6t戦車から始まり、冬戦争と継続戦争でT-26を中心に多種多様なソ連軍戦車を捕獲し、スウェーデンやドイツからも装甲車輌を購入するなど、第二次大戦の主要交戦国の様々な戦車を使っていたが、残念ながら日本製の装甲車輌は使っていない。

とはいえ、日本とフィンランド、共にソ連という仮想敵国を持っていた両国はとても緊密な協力関係にあった。特に暗号解読の分野では長い協力関係にあり、日日本陸軍は暗号資料を提供すると共に広瀬栄一中佐がフィンランド陸軍の暗号解読所に派遣されており、1941年の継続戦争の開戦までにソ連海軍の暗号はほぼ解読され、フィンランド軍の勝利に大きく貢献した。

またスキー部隊のストックに使われていた竹や二八式歩兵銃、三十一年式速射砲、三八式12センチ榴弾砲、大阪砲兵工廠製の12センチ沿岸砲などの日本製兵器がフィンランド軍で使われていたり、独ソ戦の戦況の客観的な情報を日本にもたらしてくれたのもフィンランドであった。「日本人を見るのは初めてだが、日本が我々の側で戦っていたことは知っていたよ」とは、1980年代の末、冬戦争の戦記を書く際にインタビューした元フィンランド軍人の言葉である。そんなフィンランドの戦中世代の心中を知った上で見ると「継続高校」の活躍に対する思いもまた違ってくるのではないだろうか。



BC自由学園のルノーFT17



継続高校のT-26軽戦車

第41回冬季無限軌道杯第2回戦 全試合解説

第3試合 黒森峰女学園（熊本）×プラウダ高校（青森）

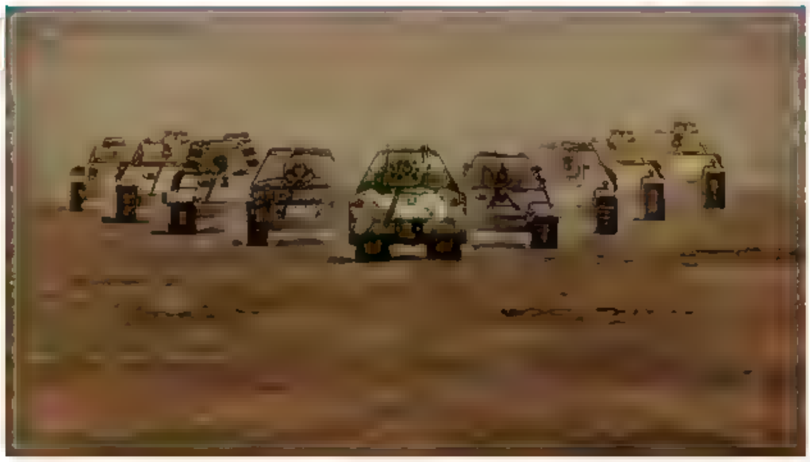




昨年の第62回戦車道全国高校生大会決勝の対戦と同じカードであり、長年に渡る因縁の対決が第2回戦で見られることとなった。全国高校生大会で黒森峰女学園を目前に大洗女子学園に敗退したプラウダ高校は昨年決勝に続く対黒森峰戦連勝を狙う。黒森峰もまた9連覇を阻まれたプラウダへの雪辱に燃えているだろう。黒森峰は逸見エリカ新隊長での初の大会参加となるが、両校とも第1回戦を圧勝で勝ち抜き、戦力も練度も実力は十分だ。これは本格的ながっぷり四つに組んだ横綱同士の戦車道が見られるのではないだろうか。是非ともこれぞ戦車道というような、好勝負を期待する。

黒森峰女学園（熊本）

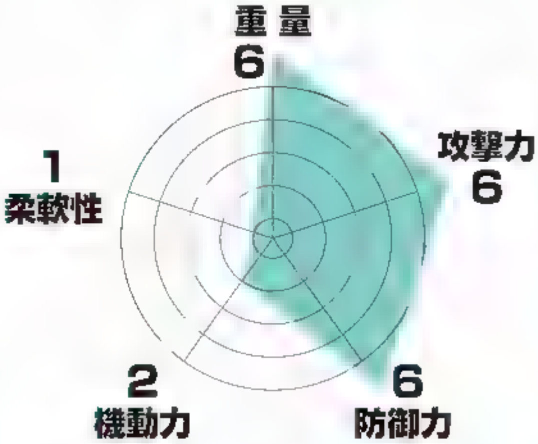
戦力分析



最大装甲240ミリ、車体側面装甲180ミリと、高校戦車道において正面どころか側面からでも遠距離からでも撃破できる戦車はほぼ存在しないと言われる超重戦車マウス。他にもヤークトパンター、エレファントなどといった重戦車軍団をどのように使うか、それが勝負の要となるだろう。プラウダ高校のIS-2が搭載する122ミリ砲は垂直な装甲に対して100メートルでも165ミリ、T-34/85では126ミリの貫徹力を持つが、ぎりぎりまで肉薄しても側面装甲の撃破すら不可能である。それに対してマウスの128ミリPaK44は、高速徹甲弾を使用すれば2,000メートルで178ミリの装甲を抜けるため、プラウダの全車輌を正面から撃破可能である。それどころか3,500メートルでも破壊可能との記録もある。ヤークトティーガーもまたマウスと同じ砲を搭載し、なおかつ最大装甲250ミリ、前面装甲上部でも40度の角度が付いた150ミリの装甲を誇り、正面から撃破されることはまずありえない。機動力に難こそあっても、それを補って余りある鉄壁の布陣である。

使用車輌数：10輌

超重戦車マウス×1
ヤークトティーガー×1
エレファント×1
ヤークトパンター×1
ティーガーII×1
パンターG型×3
III号戦車J型×2



注目戦車：超重戦車マウス

超重量級超巨大戦車マウスが最も注目されるべき車輌である。弱点となるのは装甲厚60ミリの砲塔上面か車体上面中後部、もしくは50ミリの底面だけという圧倒的な装甲を誇っている。但し、前述の通り圧倒的な重量のせいで、不整地では最大でも13km/hしか出ず、行動距離も70キロメートルに満たない。エンジンパワーも不足しているため、機動力に関しては難がある。まさに動くトーチカであり、拠点防御には適しているが、機動攻撃には不向きである。しかし、その圧倒的な火力と装甲は動く要塞としてプラウダ高校への大きな脅威になるに違いない。





逸見エリカ隊長 試合前コメント

黒森峰女学園の戦車道は王者の戦い。まだまだ未熟ですが諸先輩方から受け継いだ黒森峰の戦車道に恥じない戦いで、この試合、必ず勝利します。

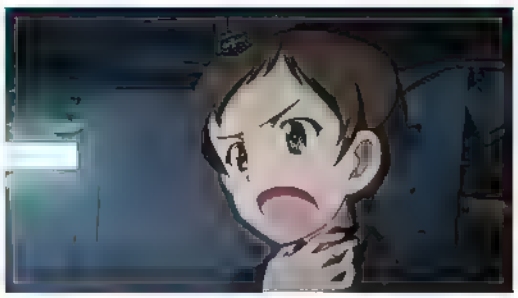


注目選手



隊長 逸見エリカ

今回最も注目すべきは、新隊長となった逸見エリカ選手であろう。コメントにもある通り、伝統をどのように受け継ぎ、その重圧にどのように耐えるのか、その手腕が見ものである。

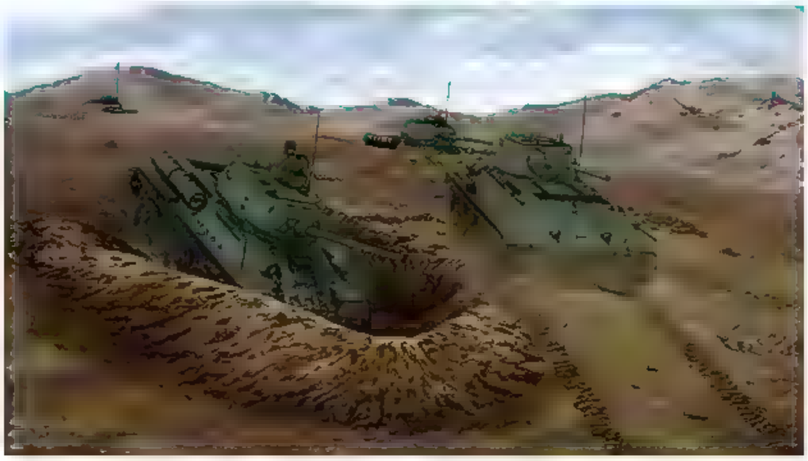


小島エミ

今回フラッグ車に選ばれたヤークトパンターの車長である小島エミ選手は、幸運に恵まれた選手との噂があり、それで抜擢されたとも。どのような戦いぶりを見せるか、非常に気になる所である。

プラウダ高校（青森）

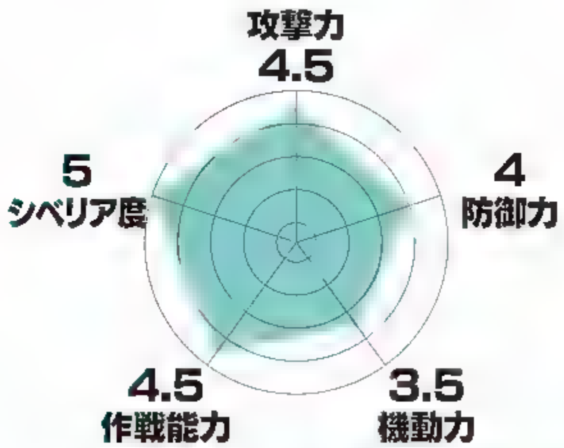
戦力分析



攻撃の主軸となるのは、大会屈指の砲手であるノンナ副隊長が搭乗するIS-2である。小さくまとめた車体に最大120ミリの装甲、強力な122ミリ砲を備えており、通常の対戦校相手なら極めて有力な戦力である。但し、弾薬が弾頭と薬莢が分かれた分離式で装填に時間が掛かり、連続砲撃は難しく、しかも28発しか搭載できないため、長期戦にも向いていない。それでも被帽付徹甲榴弾を使用すれば、100メートルの距離で装甲に垂直に命中した際に165ミリの装甲を貫徹可能であり、また25キログラムもある弾頭の衝撃によって目標を行動不能に追い込むことすらある。また、主力であるT-34系列は76ミリ砲搭載型と85ミリ砲搭載型の両方を揃えているが、車体はほぼ同一で不整地での行動力に優れ、また傾斜装甲により装甲厚に比べ防御力に優れている。火力、装甲、機動力と全て水準以上のものを備え、黒森峰女学園に対しては特に機動力で上回っているが、KV-2という機動力にかける戦車を編成に加えている。このアンバランスな編成の意図が気になるところだ。

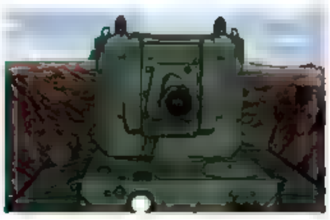
使用車輌数：10輌

IS-2×1
T-34/85×4
T-34/76×4
KV-2×1



注目戦車：KV-2

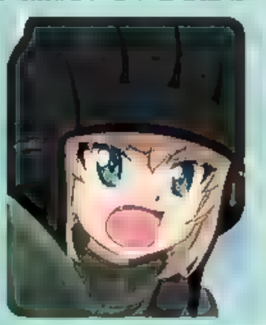
KV-2は車重52トンと、プラウダ高校の中で最も重い戦車である。主砲も152ミリと最も大きく、装甲も防楯が110ミリ、車体主要部は75ミリと重量に見合ったものである。では同校で最強の戦車かと言えば、むしろ総合力で言えば劣っている。そのあまりに巨大な砲塔のせいで機動性も悪く、不整地では15km/hしか出せない上、車体が傾くと砲塔の旋回も難しいほどである。主砲も短砲身の榴弾砲のため、40キログラムもの砲弾を使用する割には1,500メートルの距離で72ミリを貫通するのがやっとだった。このような運用が難しい車輌をどのように扱うか、そこが注目ポイントとなるだろう。





カチューシャ隊長 試合前コメント

全国大会の決勝戦はちゃーんと見させてもらったわよ！　今回も秘密作戦でピロシキの中身みたいにぐちゃぐちゃにして、カチューシャのプラウダ高校が最強だってことを証明してあげるわ！！



注目選手



副隊長 ノンナ

やはり注目すべきは、名砲手として名高いノンナ副隊長だ。IS-2でどのように黒森峰女学園の巨獣たちを狩るのか、その砲撃の腕が見ものである。



隊長 カチューシャ

やはり去年の夏の大会を勝利に導き、黒森峰女学園の10連覇を阻止したカチューシャ隊長を上げるべきだろう。彼女が今回もどのような作戦を立案し、どのような指揮を行うかに興味が集まる。

試合展開

試合前

試合会場は山岳の端とそこから繋がる舌状台地や小丘陵と荒地からなる平原が組み合わされている。小丘陵の一つには事前に平原に向けて戦車壕が設営されているため、ここをどのように使うか、もしくは相手に使わせないように食い止めるか、その駆け引きが序盤の見どころとなるだろう。戦力としては黒森峰女学園が砲力、装甲防御に関して有利であるが、機動力ではプラウダ高校が有利である。士気と練度は互いに強豪校ということもあり互角と言えよう。ただ、黒森峰に関しては、新隊長の逸見エリカ選手の統率力に未知数の部分が多く、隊長交代による影響が気にかかる。それに対して、プラウダ側は、圧倒的なカリスマ（一部からはマスコット的扱いとの声も漏れ聞こえるが）によって、部隊をしっかりと統率しているカチューシャ隊長体制は変わらず安定している。双方の指揮能力と部下の掌握具合が勝敗を分ける可能性も見逃せないだろう。

前半戦

予想通り試合開始直後にプラウダ高校は優位に立つ機動力を活かし、T-34部隊の一部（バイカルアザラシさんチーム）を先行させ、全速で小丘陵の奪取と周囲の偵察に向かわせた。速度に劣るKV-2をIS-2とT-34／85が掩護して小丘陵に向かい、隊長車はT-34／76部隊が掩護しつつ、大きく小丘陵を迂回して黒森峰女学園を牽制する動きに出る。それに対して、黒森峰はマウスを先頭にパンツァーカイル、もしくは武田信玄が三方ヶ原の戦いで使ったとの伝説がある魚鱗陣かのごとく、重戦車の装甲を活かした陣形を組み上げ、悠々と動き出した。しかしマウスを先頭にしたことで速度は落ち、プラウダの小丘陵奪取を許す結果となった。KV-2も他の車輌による牽引によって小丘陵陣地への布陣を完了、黒森峰迎撃の態勢を整える。高地陣地を奪取された状態での対峙は、黒森峰にとって奇しくも全国大会決勝と同じ構図となった。

後半戦～決着

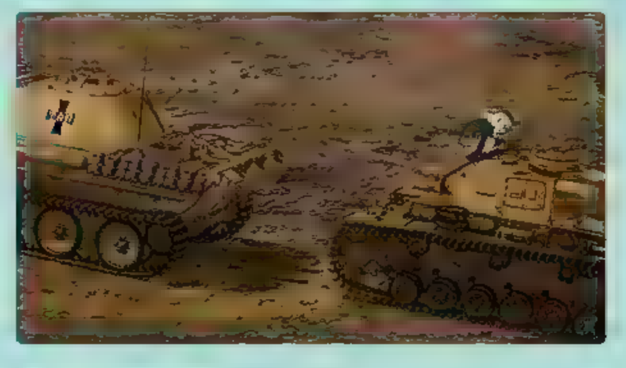
高地陣地という圧倒的に有利な地点を確保したプラウダ高校は、自軍の装甲の薄さをカバーしつつ、黒森峰女学園の車輌の装甲が薄い上面部を狙うことが可能となった。だが黒森峰は圧倒的な装甲を盾に陣形を組んだままの進撃を続け、2000メートルから砲撃を開始することで、T-34／76の一輌を撃破した。対してプラウダは1000メートルを切るまで引き付けて砲撃を開始し、KV-2の砲弾がマウスの防楯下部に命中する。この跳弾となった弾がエンジンの空気取り入れ口に命中して炸裂、冷却装置とエンジンを損傷させた判定により、マウスが撃破される。これによって黒森峰の陣形は崩れ、エレファントが撃破、ヤークトティーガーの履帯が切られる事態となる。重装甲の前衛を失ったことで黒森峰の脚は止まり、このまま滅多打ちになるかと思われた。しかしここで逸見エリカ隊長が思いもよらぬ行動に出る。隊長車であるティーガーⅡから降車すると、最後尾のⅢ号へと搭乗車を切り替えたのだ。黒森峰は重装甲車輌の榴弾攻撃によるプラウダへの目くらましを行いながら、逸見エリカ隊長率いるパンター部隊は小丘陵側面からの機動戦にスイッチする。戦車壕に潜んでいたプラウダは反応が遅れ、カチューシャ部隊が逆落としを仕掛けるも、これをかいくぐられフラッグ車を撃破されてしまう。黒森峰の劇的な逆転勝利となった。













試合結果

○ 黒森峰女学園（熊本）
×
× プラウダ高校（青森）

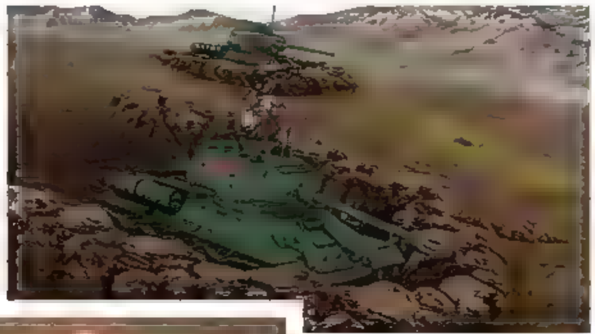
ターニングポイント



やはり勝負を決したのは、逸見エリカ隊長が自ら率いて高速部隊を積極的攻勢に出した所であろう。高速機動戦からの蜂の一刺し。黒森峰女学園従来の重戦車の火力、装甲で粉砕する戦術とは一線を画す新たな王者の姿がプラウダ高校の反応の遅れを呼び、勝利をつかみ取る結果へと導いた。

試合のポイント

試合を振り返ってみると、前半まではプラウダ高校の戦術が見事にはまっていたが、後半は黒森峰女学園の作戦勝ちと言えよう。予想通り、小丘陵陣地が勝負の要となり、プラウダの陣地奪取は実に見事であった。恐らく今回の会場と全国大会の決勝から着想したであろう作戦だが、高地からの集中攻撃は黒森峰に対し非常に効果的であった。これまでの黒森峰の伝統的な戦い方を続けていたら、そのままプラウダの勝利だったであろう。しかし、高速機動戦という伝統にこだわらない決断、そしてその決断を一糸乱れぬ動きで支える練度の高さで得た勝利は、王者の復活を予感させた。





両校隊長試合後コメント

プラウダ高校：カチューシャ

ズル(謎のプレッシャー)……くはないけど、ズルくはないけど……　あー、もう！！　次はペリメニの皮みたいにペラッペラに潰してあげるんだから！クラーラ、ニーナ、アリーナ、わかったわね！！

黒森峰女学園：逸見エリカ

自分の戦車道……　西住前隊長から言われたことが少しだけわかった気がします。この気持ちを忘れないように次の試合に臨みたいです。

ワンポイントコラム　超重戦車マウスの唯一の死角!?

文：宮永忠将

第41回冬季無限軌道杯では屈指のヘビー級対戦となった、プラウダ高校VS黒森峰女学園。陣地化された高地に布陣するプラウダに対して、超重戦車マウスを前面に押し立ててじりじり進んでいくのは、黒森峰の伝統的な戦術と言えるだろう。だが、攻防の要であるマウスは、試合の序盤で失われた。そのきっかけが「ショットトラップ」という現象であった。

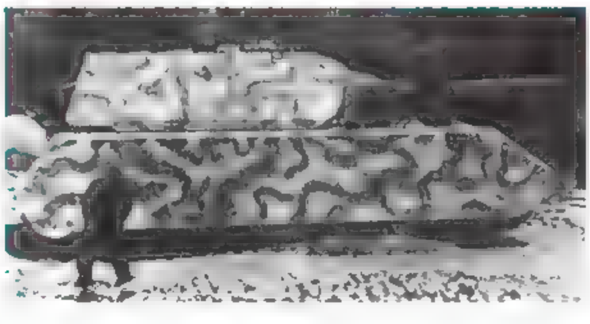
戦車の防御力は装甲の厚さで決まる。さらに敵の砲弾が真正面から飛んで来ると仮定したとき、傾斜した装甲であれば見なしの装甲厚が増える。砲弾の命中角が浅くなり、その分、エネルギーが「逸れる」からだ。特に敵に対して常に正面が向けられる砲塔を守るには不可欠な工夫となる。マウスの場合、砲塔正面の装甲は最大で240ミリの厚さがあり、さらに防楯も分厚くて、しかもかまぼこを切ったような半円状にされていたから、まさに鉄壁だ。

ところが、これが稀に弱点となる。砲塔正面の下半分に命中した徹甲弾が下向きに弾かれ、そのまま車体上面、天板と呼ばれる薄い装甲を突き破ってしまうのだ。これがショットトラップである。黒森峰の数と機動性の主力であるパンターG型戦車の砲塔正面基部がアゴのように突き出しているのは、ショットトラップを防ぐために追加された工夫なのだ。

もっとも、ショットトラップはそんなに頻繁には起こらない。プラウダはショットトラップ狙いでマウスに攻撃を集中させていたが、撃ち下ろしで浅い角度で命中させやすいという好条件が整ってもなお、容易には発生しないのだ。それをやってのけるあたり、さすが伝統校の面目躍如ではないか。

超重戦車マウス

写真提供：グランドパワー（ガリレオ出版）





第41回冬季無限軌道杯第2回戦 全試合解説

第4試合 聖グロリアーナ女学院(神奈川)×アンツィオ高校(栃木)

まるでイタリアの漁村のような色とりどりの民家が海岸沿いに立ち並び、その中は迷路のように入り組んだ道が丘に向かって続いている、高低差の大きな試合会場。まるで某映画でも有名となったコッリチェツマ海岸のようだ。外敵から守るためにわざと道は狭く入り組んで、通るのも難しく、太い通りは海岸線と並行に進む丘の上の道だけで、それを繋ぐ太い道も僅か1本のみ。こうした地形であるため、主戦場となるのは海岸通りだろうと思われる。だが戦車の大きさ次第では通行可能な細かい石段が随所にあり、こうしたルートを利用し如何にして相手に接近するか、そこが勝負を分けるポイントとなりそうだ。地形の使い方次第では、アンツィオ高校が密かに聖グロリアーナ女学院車輌に接近し、大金星を挙げるのも不可能ではない。逆に聖グロリアーナも登坂能力の高いチャーチルを活かした思いもよらぬ場所からの攻撃があり得る。



聖グロリアーナ女学院（神奈川）

戦力分析



フラッグ車であり隊長車でもあるのが、聖グロリアーナ女学院戦車道の顔とも言えるチャーチル歩兵戦車Mk.VIIである。前面装甲152ミリ、側面と砲塔後部が95ミリ、車体後部が51ミリの装甲を誇り、主砲は75ミリと装甲の割にはやや貧弱だが、それでも徹甲弾なら100メートルで100ミリ、高速徹甲弾なら130ミリ、1,500メートルでもどちらも75ミリを貫徹が可能。アンツィオ高校側の砲塔前面50ミリ、車体前面50ミリのP40や、前面50ミリのセモヴェンテを余裕で撃破できる。その隊長車を支援するのが、マチルダII歩兵戦車Mk.III/IVで、主砲は2ポンド（40ミリ）砲とやや貧弱だが、装甲は砲塔と車体前面が75ミリ、側面でも70ミリと強固で十分な防御力を誇っている。また、クルセイダー巡航戦車Mk.IIIの戦力化が急速に進み、それまで速度は遅いが装甲と連携力の高さを生かした戦術を多用していたのが、快速部隊による攪乱を行い、歩兵戦車の本体へと敵を誘引して撃破する新戦術を用いるようになった。なお、クルセイダー巡航戦車のエンジンは通常は340hpのリバティだが、600hpのミーティアエンジン搭載型の試験が行われ、64km/hを発揮したとの記録が残されており、同様の改造が行われている可能性は否定できない。

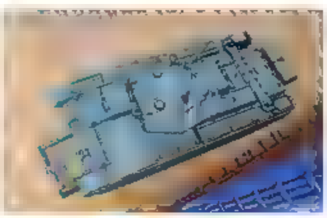
使用車輌数：10輌

チャーチル×1
マチルダ×5
クルセイダー×4



注目戦車　クルセイダー巡航戦車Mk.III

注目すべきは、近年同校において存在感を増しているクルセイダー巡航戦車Mk.IIIであろう。砲塔前面の最大装甲は51ミリ、車体前面が32ミリ、側面は27ミリと装甲はやや貧弱だが、最大速度44km/hを発揮。また軽量の車体によって軽快な機動が可能となっているため、聖グロリアーナ女学院の目であり脚として、高速戦闘を得意とするアンツィオ高校に対して有効な戦力となるのが期待される。また、聖グロリアーナでは伝統的に行進間射撃（走行中に砲撃を行うこと）を重視しており、本車輌はそれを得意としているために、機動性と砲力を組み合わせた柔軟な戦闘が見ることができるだろう。





ダージリン隊長　試合前コメント

こんな言葉を知ってるかしら？「凧が一番高く上がるのは、風に向かっている時。風に流されている時ではない」。あちらは随分と個性的な戦車が多いようですけど、私たちはどんな相手でも決して侮ることはありませんわ。正々堂々あらゆる手段を使って勝利をお見せいたします。



注目選手



隊長 ダージリン

やはり注目すべきは隊長のダージリン選手であろう。優雅でありながらも策に長けた指揮能力は高校戦車道トップレベル。勝利のために権謀術数を厭わない英国面を兼ね備えている姿にファンも多い。



ローズヒップ

イギリスは世界のモータースポーツの要衝であり、またその発祥の地とも言われている。その精神に則り、スピードに特化したローズヒップ選手は、スピード重視のアンツィオ高校相手にどの様な戦いぶりを見せるか楽しみだ。

アンツィオ高校（栃木）

戦力分析



アンツィオ高校が長年の貯金の末に、ついに念願の重戦車P40を購入したのは最近の話である。だが重量は26トンと他の学校で言えば中戦車相当しかなく、傾斜装甲を多用しているデザインからもイタリア製のT-34/76と言った感じである。性能的にも同様で、装甲も前述の通り砲塔前面50ミリ、車体前面50ミリとイギリスの2ポンド砲に対する防御は可能となっている。主砲は34口径75ミリ砲を搭載し、500メートルで70ミリの装甲貫徹力を持ち、M42HEAT弾を使用すれば100ミリが貫徹可能で、側面や後方からならチャーチルを撃破することもできる。また、セモヴェンテM41は、正面装甲50ミリを持ち、搭載された18口径75ミリ砲は初速が遅いがそれでも500メートルで30度の装甲に命中すれば、60ミリを貫徹可能で、チャーチルの後部なら撃破できる可能性はある。だが、マチルダIIに対しては撃破できる箇所が少なく、肉薄する必要がある。そして半数以上である6輌も揃えたCV33に関しては、豆戦車のカテゴリーであり、装甲は最大でも7～14ミリと小銃を防ぐので精一杯、武装も8ミリ重機関銃を2丁と期待は出来ない。軽快さを生かした撹乱戦法で何とか活路を見出したい。

使用車輌数：10輌

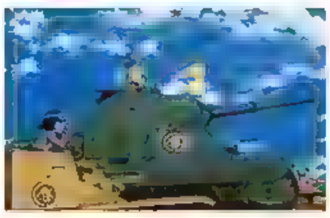
P40×1
セモヴェンテM41×3
CV33×6



注目戦車：P40

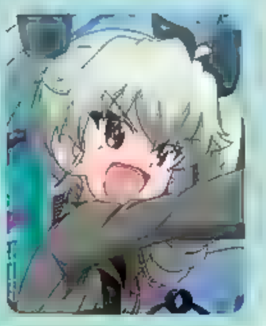
ここはやはりアンツィオ高校自慢の重戦車P40であろう。大学選抜戦参戦時には故障で参加できず、資金難から出場が危ぶまれていたが、今大会では問題なく参戦できたようだ。他校における中戦車程度の性能とは言え、それまで出場戦車の全てが旋回砲塔を持たない自走砲だったアンツィオが、ちゃんとした旋回砲塔を持ち、それなりの機動力と防御力、攻撃力を兼ね備えた戦車を出場させた、この一点だけでも大きな進歩があったのが伺える。機動力全振りの戦力に加わった一撃が期待できる戦車。新たなアンツィオの戦いに期待したい。



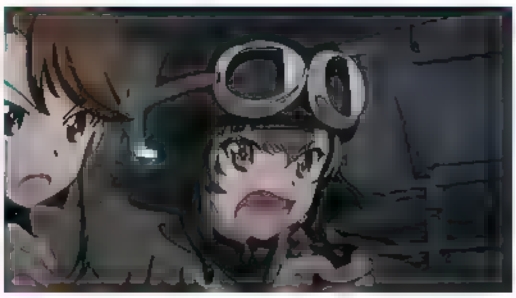


アンチョビ隊長 試合前コメント

見よ、このP40の雄姿を！ついに我らの悲願がここに達成したのだ！三度のおやつを二度にした長い雌伏の時はもう終わった。後は華々しい勝利の果実を味わうだけだ！アンツィオ高校は弱くない、いや強いと言う事実を諸君らに存分に見せて差し上げよう！

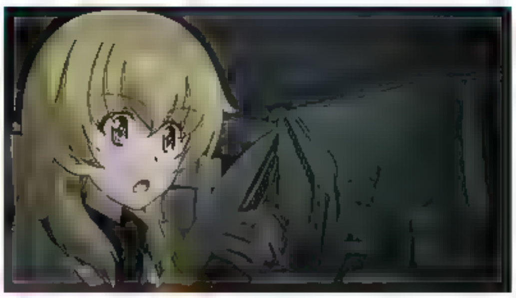


注目選手



副隊長 ペパロニ

まず注目すべきは、CV33部隊を率いるアンツィオ高校の切り込み隊長、ペパロニ選手であろう。スピードスターとして聖グロリアーナ女学院のローズヒップ選手とのマッチアップが予想される。いかなるスピード勝負が展開されるか注目だ。



副隊長 カルパッチョ

ペパロニ選手と並ぶもう一人の副隊長、カルパッチョ選手も注目に値する。アンツィオ高校のセモヴェンテ隊を率いる貴重な火力担当役だ。冷静な戦略眼を持つ参謀役として、そして前がかりになりがちなアンツィオの抑え役として動きが気になる所である。

試合展開

試合前

会場発表前までは、聖グロリアーナ女学院のローズヒップ選手率いるクルセイダー部隊と、アンツィオ高校のペパロニ選手が率いるCV33部隊によるスピード勝負がどうなるかが、注目された。しかし試合会場は高低差の大きな市街地となり、近距離戦が予想されると、一部のファンががっかりすることになった。だが、逆に狭い道が多い会場は、アンツィオの車輌、特に豆戦車であるCV33が活躍する絶好の舞台であり、神出鬼没の戦いを繰り広げる可能性がある。会場は遠距離砲戦が発生しないと思われ、隠れるのは容易だが逃げるのは難しく、どこから奇襲を受けるのか分からないフィールド構成となっている。そのため、聖グロリアーナの鉄の布陣に対するアンツィオの小回りの効く機動力という双方の長所がぶつかり合う展開になると予想される。

前半戦

序盤は、狭い会場であるため、試合開始と同時に両チームが接敵するという、最近の戦車道では非常に珍しいパターンとなった。双方海岸道路で隊列を組んだまま遭遇、直ちに戦闘が開始された。聖グロリアーナ女学院のクルセイダー隊の突出に対し、CV33を囮としたセモヴェンテの砲撃で1輌を撃破、アンツィオ高校が先手を取った。その後、速やかに退避行動を行うが、逃走経路が直線に限られたため、チャーチル、マチルダⅡの追撃部隊にCV33が次々に撃破される。ここでファルファーレ作戦の開始をアンチョビ隊長が宣言し、細い路地へと逃げ込む。なおファルファーレとは、蝶のような形をしたパスタで、綴りの最後がeと複数形となっているので「蝶々たち」という意味がある。要するに速度と軽快な機動力を生かして、蝶のように舞い蜂のように刺す作戦である。P40をセモヴェンテが押して石段を登り、丘の上の並行道路に出ると直ちに左右へと展開、追撃する聖グロリアーナの後方へと回りこんだ。

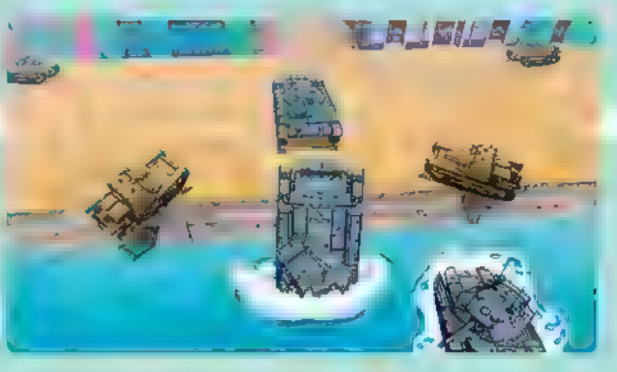
後半戦～決着

聖グロリアーナ女学院の後方に回り込み絶好の機会を得たアンツィオ高校だったが、わずかに攻撃は間に合わなかった。ここで攻守が交代、クルセイダー隊が入れ替わりで襲い掛かり、アンツィオはCV33が前面に出て足止めを図る。幸運にも段差を利用してクルセイダーの下に潜り込んだCV33はそのまま海岸道路から水中へとクルセイダーを排除、続けてもう1輌のクルセイダーを突進を利用することで同じく水面へ落とすことに成功する。撃破にこそ至らなかったが会場からはこの奇抜な戦術に喝采が贈られた。クルセイダー隊残り1輌となり、逃走するローズヒップ車を追撃するアンツィオだったが、逃走先には聖グロリアーナによるキルゾーンがすでに形成されていた。CV33が果敢にP40を守ろうとするも、聖グロリアーナの一斉砲撃によってアンツィオは全滅する結果となってしまった。

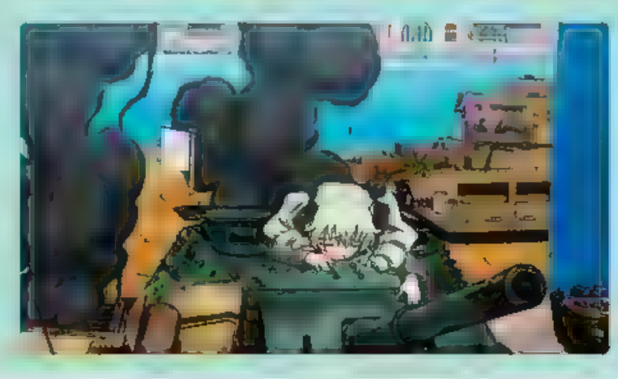












試合結果

○ 聖グロリアーナ女学院（神奈川）

×

× アンツィオ高校（栃木）

ターニングポイント



アンツィオ高校がファルファーレ作戦を発動、石段を使って上手く聖グロリアーナ女学院の後ろに回ったところまでは良かったが、唯一のチャンスであった後方からの砲撃タイミングが遅れたことがターニングポイントだった。一方の聖グロリアーナは奇襲、奇策にも動ぜず着実に戦局を進め、キルゾーンからの一網打尽という盤石の強さを見せた。

試合のポイント

試合を振り返ってみると、聖グロリアーナ女学院は前試合で、ワッフル学院にフラッグ車であるチャーチルを孤立させられ、撃破されかけたわけだが、今回はその教訓を十二分に生かし、アンツィオ高校もチャーチルを直接狙ってくることを想定した戦術を組んでいたのが分かる。単純に石段を登っているように見せ掛けて、ここぞという所で速度を上げてアンツィオ側の砲撃位置をずらすという、地味だが効果的な戦術を駆使することによって、砲弾を回避した。一方で砲力に劣るアンツィオからすれば、奇策を使うか、地形を利用してチャーチルの後ろに回り、弱点に砲撃を行うしか勝利の道は無かった。彼我の戦力を的確に掌握していたダージリン隊長が会場の全てを支配していた試合と言えよう。





両校隊長試合後コメント

アンツィオ高校：アンチョビ

くそー、あとちょっとで勝てたんだけどな～

結果は残念だったが、我々が勝つチャンスは確実にあった！次こそは第2回戦突破、じゃなかった優勝だ～！！

聖グロリアーナ女学院：ダージリン

彼を知り、己を知れば百戦危うからず。この言葉通りの試合となりましたわね。地の利と人の輪と時の運を味方につけ、この大会、優勝させていただきますわ。

ワンポイントコラム 聖グロリアーナ女学院戦に見るアンツィオ高校のイタリア戦車

文：吉川和篤

第1回戦に引き続いて、今回もアンツィオ高校は保有するイタリア戦車10輌を聖グロリアーナ女学院との戦いに投入したが、そのオーダーは変わっていない。第2回戦でも無砲塔のCV33型快速戦車（豆戦車）が6輌と数の上では最大であったが、相手となる重装甲のイギリス戦車にはその8ミリ機関銃2挺の武装では全く歯が立たない事は火を見るより明らかであった。そこで、前回のボンプル高校との試合で有効であった敵戦車に取付いて動きと視界を邪魔する「ファルファーレ」（蝶々）作戦に再び投入されたが、機動力のある相手戦車に出し抜かれてチーム全体で網打尽に包囲殲滅されてしまっている。

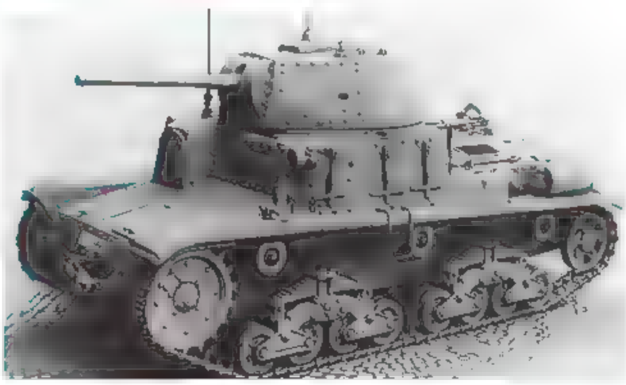
これは冷徹なデータ分析係が居る聖グロリアーナチームに第1回戦のアンツィオの動きが読まれていたのが敗因であるが、もう一つの敗因は動きが取れない狭い坂道や階段での行動にもあった。これは無砲塔で進行方向にしか火力が使えない、CV33型のウィークポイントであり、同時に強力な75ミリ戦車砲を搭載した3輌のM41型セモヴェンテ（自走砲）も同じ一方向性の落とし穴にハマり込んでいた。

何となれば、同校はP40型重戦車を除いた10輌中の9輌が、進行方向にしか火力を使えない無砲塔車輌であったのである。これではある程度の空間が無いと、例えCV33型が取付いても残り4輌の75ミリ砲で止めを刺すのは至難の技と言える。

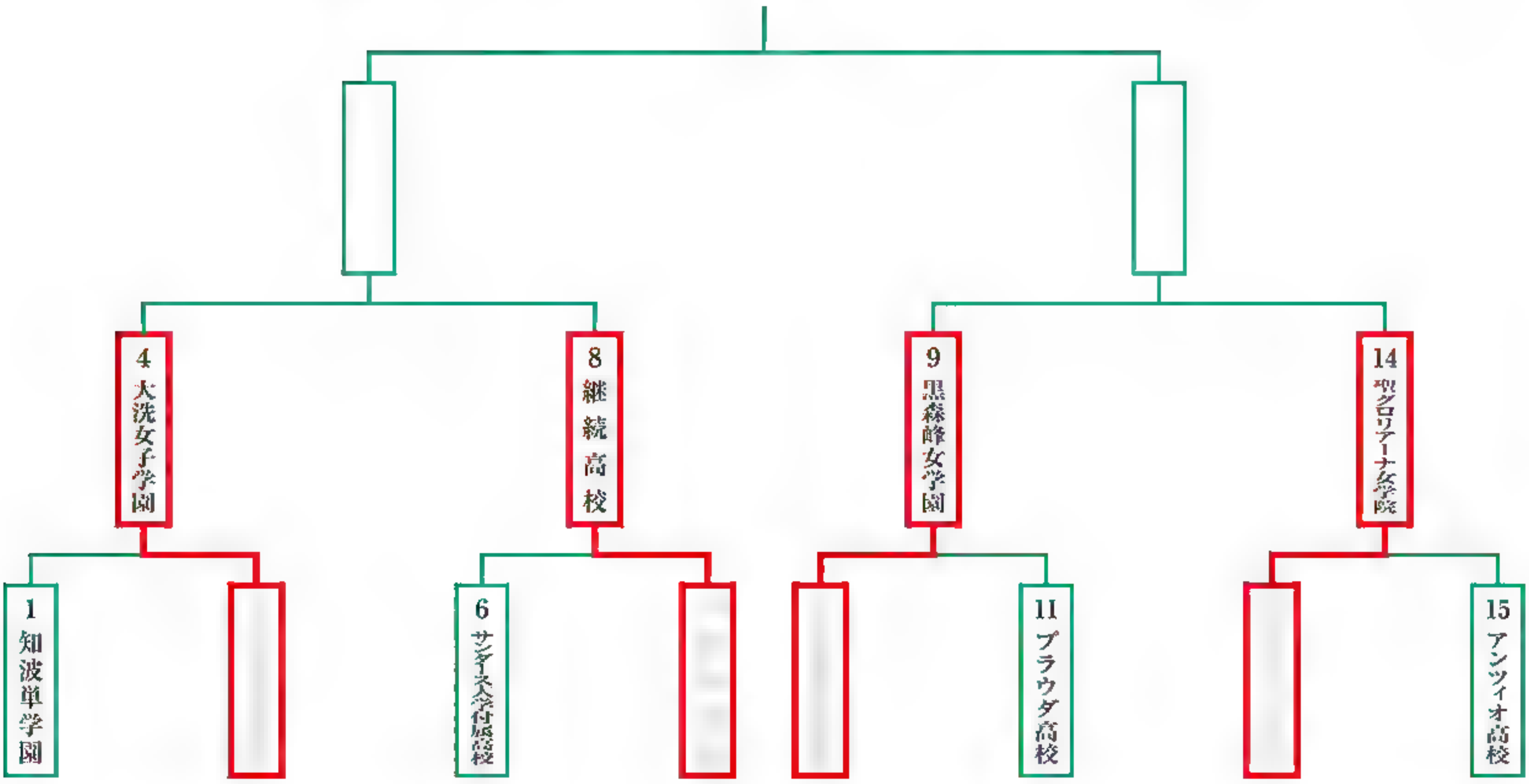
やはり、同校は一度のおやつをさらに減らして、回転砲塔に長砲身の47ミリ戦車砲を装備したM15／42中戦車を最低2輌以上、配備すべきでないだろうか。

M15／42中戦車

写真提供：グランドパワー（ガリレオ出版）



無限軌道杯準決勝対戦カード決定！注目カードをチェック！



第2回戦の総評&準決勝への期待

好カードが並んだ第2回戦を振り返ると、予想を超える白熱した試合が目白押しだった。

第2回戦第1試合は、知波単学園と、第63回戦車道全国高校生大会で優勝し、強豪校の仲間入りを果たした大洗女子学園が激突。知波単は従来の「突撃」を主軸とした戦法を控え、ゲリラ戦法で地道に詰め寄る戦い方によって大洗を窮地に陥れた。惜しくも勝利は逃してしまったものの、知波単の評価を大きく変える結果を残した。

第2試合のサンダース大学付属高校と継続高校の試合は、火力と装備に勝るサンダースの圧勝かと思われていたが、まさかの番狂わせが。順調に継続を追い詰め、確実に撃破を重ね、有利に戦いを進めていたサンダースだったが、わずか1発の砲弾が勝負を大きく覆した。ヨウコ選手による遠距離からの正確な狙撃がサンダースのフラッグ車を射貫き、継続が逆転勝利を飾った。

第3試合は、因縁の対決となる黒森峰女学園とプラウダ高校。両校とも優勝候補の一角を担う強豪同士の戦いだが、新たに黒森峰の隊長となった逸見エリカ選手の指揮による、これまでの黒森峰らしからぬ機動性を活かした戦術によってプラウダを撃破。

第4試合は聖グロリアーナ女学院とアンツィオ高校の一戦。アンツィオは豆戦車を軸とした得意の機動戦で善戦するも、火力と戦術に長ける聖グロリアーナを追い詰めることはできず敗退。

夏季大会に続いての連覇を狙う大洗と予想以上の躍進を見せる継続。優勝候補同士の激戦が必至となる黒森峰と聖グロリアーナ。両カードとも結果の予想が難しい激戦となるのは間違い無いだろう。

準決勝出場校ストロングポイント

大洗女子学園

大洗女子学園の持ち味である変幻自在な戦闘が健在であることは、不慣れな夜戦＆ジャングルというフィールドで展開された知波単学園戦でも証明済み。また、夏季大会では弱点でもあった、車輌ごとの練度の差もかなり埋められてきており、駒を進めるごとに安定感や連携力を上げてきていることは間違い無い。一方で、今大会から新たに隊長を務めている河嶋桃選手がどれだけ的確な指示を出せるかが、今後の試合ではさらに問われそうだ。

継続高校

継続高校は第２回戦から虎の子的にあまり表に出てこなかった「白い魔女」と呼ばれるヨウコ選手を本格的に投入。超高校生級と呼ばれるほど的確な長距離の砲撃を得意とするサンダース大学付属高校のナオミ選手が驚くほどの狙撃能力は、大洗女子学園にとっても大きな脅威となることは間違い無い。さらに、試合会場が雪面となれば、雪上戦を得意とする継続高校にとってはフィールドとしても有利であり、もしかすると大洗女子学園を破る波乱が起こるかもしれない。

黒森峰女学園

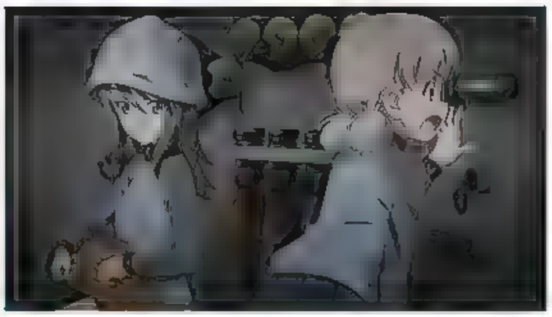
絶対的な強さの要となっていた西住まほ選手が海外留学のために離脱し、指揮力の低下が不安視されていた黒森峰女学園だが、前大会で副隊長であった逸見エリカ選手が隊長を務めることに。第２回戦では、強豪プラウダ高校を相手にこれまでの西住流に準じた戦略とは異なる戦い方で挑み、第62回全国戦車道高校生大会決勝での雪辱を果たした。逸見エリカ隊長の長所を活かした新たな黒森峰流の戦い方は聖グロリアーナにどれだけ通用するのかが見所と言えるだろう。

聖グロリアーナ女学院

第１回戦のワッフル学院戦、第２回戦のアンツィオ高校戦の２試合とも、ほとんど危なげなく勝ち進んだ聖グロリアーナ女学院。その危なげない戦いぶりは、本大会出場校の中で最も安定しているように見える。高い実力を持ちながらも、第62回、第63回大会とも決勝に進むことができなかった聖グロリアーナは、隊長のダージリン選手にとって卒業前最後の大会ということもあり、準決勝ではかつて辛酸を舐めた黒森峰に雪辱を果たすべくついに本領を発揮すると思われる。

第1試合 大洗女子学園 × 継続高校





夏季大会ではノーマークの無名校ながら、優勝候補を次々と打ち破って優勝を飾り、今大会ではディフェンディングチャンピオンとなった大洗女子学園。一方、優勝候補の一角だったサンダース大学付属高校を破り、本大会のダークホースとして躍り出た継続高校。継続高校は温存してきたと思われる攻撃の要である「白い魔女」ことヨウコ選手による高精度な遠距離射撃と、ミッコ選手が操縦する機動性の高い隊長車による陽動が組み合わされば、大きな脅威となることは間違い無い。他校のように戦法が表立っていないという不気味さもあり、今回の継続高校はひと筋縄ではいかない存在だと言えるだろう。しかし、前大会では急造チームとしての危うさがありながらも、試合を重ねる中で大きな成長を見せた大洗女子学園もかつては同じようにダークホースとして注目を集めた。これまで幾度も予想外の戦法で窮地を脱してきたという経験値を持っているという点では継続高校に引けを取らず、今回も常識を越える奇策で対抗するだろう。そうした視点からも、今回大会の台風の目同士が激突する要注目カードであることは間違いない。

第2試合 黒森峰女学園 × 聖グロリアーナ女学院





第1試合がダークホース同士の戦いであるのに対し、第2試合は準決勝らしい優勝候補同士の1戦であり、夏季大会である第63回全国大会準決勝を再現する、同一校同士の対戦が実現。ある意味、どちらも負けるわけにはいかない宿命的な試合となっている。黒森峰女学園は、ご存知の通り全国大会9連覇という偉業を達成してきた、まさに高校戦車道界の中心的存在。しかしながら、第62回全国大会では10連覇を前にプラウダ高校に敗退。再起をかけた前大会も決勝にてまさかの大洗女子学園に敗北。名門校としては今大会こそは優勝旗を手に入れたいという意気込みがあり、新隊長の逸見エリカ選手も出し渋りなく攻めることだろう。一方の聖グロリアーナ女学院は、前大会の準決勝であと一歩のところで黒森峰女学園に敗退。2大会連続での敗北を避けたいという思いと、今大会で卒業することとなる隊長のダージリン選手に華を持たせたいという思いから、チーム一丸となり、全力を注いで勝利を狙いに行くに違いない。毎年上位争いに絡む強豪校同士の激突ということで、第1試合と同じく勝敗や展開の予想が難しいカードだと言えるだろう。

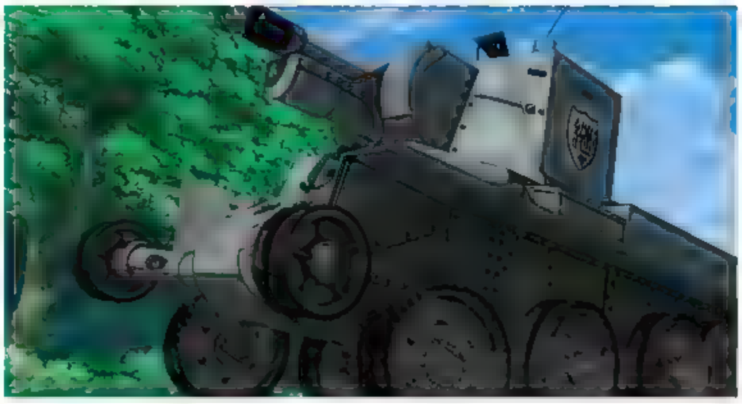
活躍注目校② 黒森峰女学園

隊長の交代という大きな変化と強豪校としてのプライド、そして「強気な黒森峰の復活」というプレッシャーを抱えての出場となった、逸見エリカ選手率いる新生黒森峰女学園。対プラウダ高校戦で見せた、従来の黒森峰とは異なる戦法は、聖グロリアーナ女学院相手にどこまで通用するのか?その新しい戦いぶりに注目が集まっている。



活躍注目校① 継続高校

準決勝進出校の中で最も優勝に遠いと思われていた継続高校だが、その評価は対サンダース大学付属高校戦で払拭。一撃逆転という強力な武器を、驚異的な強さと粘り強さを発揮する大洗女子学園相手にどのように使うのか?今まで開示されていない奥の手も用意していそうな継続高校。その活躍に注目したい。



不肖・秋山優花里の

第11回



戦車講座

けっこう頑張っていた？　でも…

間に合わなかった日本戦車たち

列国に比べ遅れていたと言われる日本の戦車開発。しかし日本にも世界に追いつこうとした懸命な努力があったのです。第二次世界大戦の後半に開発された素敵な日本戦車をご紹介します！

みなさん、こんにちは！第2回戦では夜のジャングルで右に左に戦車を操縦でき、とっても楽しかった秋山優花里です！それにしても知波単学園の勇敢さと練度の高さには改めて驚かされました。知波単にもう少し強力な戦車があったら…と思うと背筋が寒くなります。そこで今回は旧日本軍が開発していた様々な新型戦車をご紹介したいと思います。

これぞ本物の潜水戦車「特二式内火艇」

最初にご紹介するのはユニークな水陸両用戦車、「特二式内火艇カミ」を発展させた「特三式内火艇カチ」です。旧日本海軍としては「特二式」をまずまずの成功と考えていましたが、元が「九五式軽戦車」なので火力不足。西原殿と上西殿も「特二式」の37ミリ砲ではウサギさんチームの「M3リー」をなかなか倒せず苦労をしていました。

「特三式内火艇」は陸軍の「一式中戦車チヘ」をベースに作られ、主砲47ミリ砲、正面装甲50ミリ、前後に浮舟をつけた全長は10メートルを越える重量28トンの堂々とした戦車です！

その最大の特徴はエンジンを積んだまま潜水艦に搭載可能なことでした。そもそも「特二式」は『潜水艦に搭載して奇襲をかける』ためにエンジンが取り外し式でした。しかし、浮上した潜水艦の上でエンジンを搭載するのは、やはり大変だったようです。「特三式」ではその手間を省くためにエンジンを円筒状の耐圧カプセルに収容。なんと深度100メートルの潜水に耐えられた、と言われています。

この凝った構造のため「特三式」は生産コストが大きすぎ、19輌しか調達できませんでした。そこで海軍では潜水艦搭載を諦め、構造を簡略化した「特五式内火艇」の開発も進めます。実際に潜水艦に積んだ特式内火艇での奇襲作戦は実施されなかったので、これは合理的な判断だと思います。

残念ながら「特五式」は設計だけで終わってしまいましたが、計画では車体に固定式の47ミリ砲を搭載し、砲塔には25ミリ機関砲を設置予定でした。敵前上陸時には機関砲の方が有効と考えられたのでしょうか？ただ使用する部隊側からは『47ミリ砲は砲塔に搭載すべき！』との要求が出されていたようです。

なぜか攻撃兵器になった「特四式内火艇」

海軍では「特五式」の前に「特四式内火艇カツ」という車輌も開発しました。

こちらは戦車というよりは装甲車で、箱型のボディはアメリカのLVTに似ています。それもそのはず、「特四式」は海から海岸に乗り上げ、そのまま内陸まで物資を輸送するための車輌だからです。

誕生のきっかけは1942年のガダルカナル島での出来事でした。日本は輸送船で陸揚げした物資を内陸まで運べず海岸に山積みにしてしまい、アメリカの空爆でほとんど失ってしまいました。この教訓を活かすべく設計されたのが「特四式」です。

水陸両用車としての「特四式」は全長11メートルの大型車輌で人員40名または4トンの物資が輸送可能。スクリューにより水上を時速8キロで航行可能で、陸上では履帯で進みます。そして「特四式」も潜水艦への搭載が可能でしたので、孤立した太平洋の島々への補給で活躍が期待されました！潜水艦への搭載能力は「特四式」にこそ必要だったと思います。

しかし、攻撃重視の海軍上層部は「特四式」に魚雷を取り付け、南洋のサンゴ礁で休養中のアメリカ艦隊を攻撃する「竜巻作戦」を立案します。履帯があるのでサンゴ礁を超えてアメリカ艦隊に近づける！と考えられたのです。ちなみにこれは特攻ではなく、攻撃後、乗員は「特四式」を自沈させ、荷台の小型船で脱出予定でした。

作戦は1944年5月27日の海軍記念日（日本海海戦勝利の日）に決行！となりました。ですが「特四式」は元々輸送用なので速度は遅いしエンジン音が大きいので奇襲は不可能、との理由で中止になりました。無謀ともいえる作戦だったので中止されて本当に良かったです。

遅れをとった日本の戦車開発

これまで海軍の戦車を見てきましたが、ここで陸軍の戦車を振り返りたいと思います。陸軍では『戦車は歩



特四式内火艇（カツ）

ガダルカナル攻防戦の戦訓を基に、太平洋の島々への輸送目的に開発された水陸両用車。
潜水艦への搭載が可能で1944年から終戦までに49輌が生産されたが、18輌が魚雷を搭載し攻撃任務に転用された。

写真提供：グランドパワー（ガリレオ出版）

兵の支援兵器』として、アヒルさんチームの『八九式中戦車』から西殿の「九七式中戦車チハ（日砲塔）」まで、主砲は対戦車戦には不向きな短砲身でした。このため1939年のノモンハン事変では、日本戦車は「BT-5」を始めとしたソビエト戦車に完敗してしまいます。

慌てた日本では研究中だった「九七式（新砲塔）」の実用化を急ぎます。ご存知の通り新砲塔には対戦車用の長砲身47ミリ砲が搭載されています。更に1940年には「九七式」を発展させた「一式中戦車チヘ」の開発がスタートしました。

この時、戦車部隊から『一式の主砲には長砲身の57ミリ砲を新開発すべき！』との声が上がりましたが、陸軍上層部は『歩兵部隊の対戦車砲が47ミリだから補給を考え統一するべき』と認めません。同時期のドイツでも「Ⅲ号戦車」の主砲が37ミリから50ミリ砲にアップしたばかりですので仕方がない面もありますが、結果的には大失敗でした。

そして1942年、日本が東南アジアに攻め込んだ時、フィリピンやビルマでアメリカの軽戦車「M3スチュアート」が日本の前に立ちはだかります。「九七式中戦車（日砲塔）」では軽戦車の「M3」を撃破できません！そこで急遽、「九七式（新砲塔）」が投入されました。この時は日本の戦車開発が間一髪で間に合ったのです。

しかし1943年、太平洋戦線に75ミリ砲搭載の「M4シャーマン」が登場すると「九七式（新砲塔）」ではまるで歯が立ちません。新戦車ながら「九七式」と同じ47ミリ砲搭載の「一式」も同様でした。ローズヒップ殿の「クルセイダー巡航戦車」が6ポンド砲（57ミリ）だったことを考えると、「一式」が長砲身の57ミリ砲を搭載していたら、少しは抵抗できたかと思うと残念でなりません。

大急ぎで作られた「三式中戦車」

もちろん、日本の技術者達にも1941年6月に始まった独ソ戦での「T-34/76」の活躍は伝わっていましたので、「一式中戦車チヘ」では力不足だと認識されていました。こうして対ソビエト用に1942年に開発が始まったのが「四式中戦車チト」と「五式中戦車チリ」です。

えっ？アリクイさんチームの「三式中戦車チヌ」が抜けているって？そうです、「三式」はアメリカの「M4」に対抗するため代打で開発された急造戦車なんです！

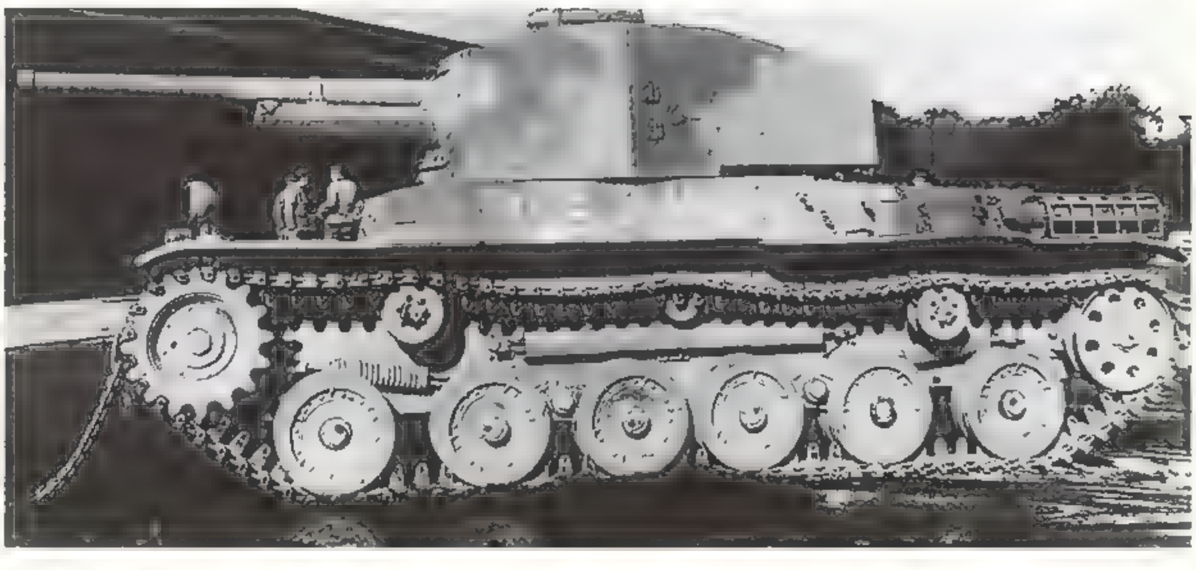
その証拠は名前に現れています。「三式」の非匿名「チヌ」は『いろは』の順で付けられています。最初の「チ」は中戦車の符号で、次の「ヌ」が開発順です。語順は『イロハニホヘト、チリヌルヲ』ですので、「三式」の「ヌ」は、「四式」の「ト」、「五式」の「リ」の後にあるでしょう？

こうして1944年5月に開発が始まった「三式」は9月には試作車が完成、すぐに量産が始まります。ベースが「一式」だったとはいえ驚くべきスピードです！その分、主砲に75ミリ野砲をそのまま搭載するなど問題点も多かったのですが、ともかく「M4」と戦える戦車が求められていたのでした。

世界標準に並んだ「四式中戦車」

日本戦車の本命として開発されていた「四式中戦車」の登場が「三式」よりも遅くなったのは、日本の技術不足と共に開発方針の混乱も要因でした。当初「四式」は重量20トン、主砲47ミリ砲と「一式」と代わり映えのしない設計でしたが、独ソ戦での戦車の急激な発展が伝わり、重量25トン、主砲は57ミリ砲にアップされます。当然これでも相手が「M4」では力不足。最終的には世界標準といえる長砲身75ミリ砲を装備した重量30トンの戦車となりました。

その主砲は中国で鹵獲したボフォース75ミリ高射砲を元にした戦車砲で、1000メートルの距離から「M4」を撃破可能！これまでの「九七式（新砲塔）」では正面からの撃破はほぼ不可能。「三式」も100メートルまで近づかないと「M4」の正面装甲は貫通できなかったので、これは画期的なことでした。ようやく日本戦車も世界に追いついたのです！



三式中戦車（チヌ）

M4シャーマンに対抗するため、1944年に一式中戦車の車体を流用して急遽開発された戦車。主砲の75ミリ砲はM4に対抗可能だったが、野砲ベ-スだったため操作性が悪く、発射速度が遅かった。

写真提供：グランドパワー（ガリレオ出版）

ただ1944年5月に完成した試作車は75ミリ砲が間に合わず、砲塔には57ミリ砲を搭載していました。やはり「75ミリ砲を搭載した旋回砲塔」の開発は難しく、アメリカでさえ「M4」が完成するまでの代打に「M3リー」を作ったほど。75ミリ砲を搭載した「四式」の完成は1945年2月になってしまいました。しかし、この時には日本の国力は底を突き始



五式中戦車(チリ)

1945年3月に試作車が完成した自重35トンの中戦車。主砲の75ミリ砲に加え車体前部に副砲の37ミリ砲を搭載していた。将来的には主砲を88ミリ砲に換装することも計画されていたと伝わっている。

写真提供：グランドパワー（ガリレオ出版）

めていて「四式」の量産は難しくなっており、終戦までに数輛の生産しか出来ませんでした。上層部の未来予測の失敗に振り回されてしまった「四式中戦車」、実力を発揮できずに可哀想です。

和製ティーガー?「五式中戦車」

「四式」の開発と同時に研究が始まっていたのが、最強の日本戦車とうたわれる「五式中戦車チリ」です。これは「四式」の主砲が原案では47ミリ砲だったので、もっと強力な戦車が必要になると戦車開発チームでは予想していたからです。当初、突撃砲のような低姿勢の車輌や57ミリ砲搭載の戦車など様々な研究がされていたようですが、1943年夏には、主砲75ミリ、自重35トンの大型戦車として開発がスタートしました。

当時、日本にはこの重さに対応できるエンジンが無かったので、BMWの航空機用ガソリン・エンジンを搭載。他にも砲塔の回転と共に床も動くバスケット方式を採用するなど、これまでの日本戦車とは違う画期的な戦車でした。ただし車体に固定式の37ミリ砲を装備するなど、少し時代遅れな面も残しています。ドイツの超重戦車「マウス」も副砲を搭載しましたが、それまでにない大口径砲を採用すると主砲弾を節約するため副砲を搭載したくなるのかもしれません。

ちなみにこの75ミリ砲は、後に「四式」の主砲に採用されます。すると「五式」の存在意義が無くなってしまいますよね。この辺にも日本の戦車開発の混乱ぶりが見えますが、そこは大丈夫！なんと「五式」は88ミリ砲の搭載も考慮されていた!!と伝わっています。

この88ミリ砲は中国で鹵獲されたクルップ社の高射砲がベースで、「ティーガーI」の主砲と同系列です。ですので火力は「ティーガーI」とほぼ同じ能力が発揮できたのではないかと言われています。ただ重量から見て防御力はさほど高くなかったようです。車体の大きさからみても「和製パンター」と呼ぶのが正しいかもしれません。

この「五式」は試作車が1945年3月に完成しましたが、ひっ迫した戦況を鑑み、「四式」の生産が優先されることに。搭載していた75ミリ砲は取り外され、「四式」などの試験に回されてしまったそうです。まさに悲運の戦車です！

ちなみにペーパープランで終わってしまいましたが、「五式」と同時期に固定戦闘室に105ミリ砲を搭載した和製「エレファント」といえるデザインの「ホリI」と、和製「ヤークトティーガー」的な「ホリII」という戦車も開発されていました。「JS-2」や「ティーガーII」といったモンスターのような戦車が戦う独ソ戦の様子が日本にも伝わっていたようですね。

世界をリードする「10式戦車」

第二次世界大戦後、しばらく武装が禁止された日本ですが、自衛隊の発足と共に戦車開発が再スタート。「四式」や「五式」の研究開発が基礎となり、1961年に90ミリ砲を搭載した「61式戦車」が制式化されます。ただ同じ年にはソビエトのパレードに100ミリ砲を搭載した「T-55」が登場し世界にショックが走ります！

これに対抗すべく1974年に105ミリ砲を搭載した「74式戦車」が制式化されますが、その3年後、ドイツで120ミリ滑空砲搭載の「レオパルト2」が制式化されます。日本の戦車開発は戦後も世界に一歩遅れを取っていました。

これがようやく解消されたのは1990年の「90式戦車」の登場です。自動装填装置を採用し、世界に先駆け『行進間射撃』を実用化―そして2010年に制式化された「10式戦車」では蛇行しながら射撃が出来る『スラローム射撃』を実現！それを可能にした技術力は世界から注目されています。1927年に国産試作戦車が初めて登場してから80余年。日本は遂に世界をリードする戦車を生み出したのです！

如何だったでしょうか？日本の戦車たちも必死に世界に追いつこうとしていたのですね。それではまた次回、お会いいたしましょう！



10式戦車

2010年に制式化された戦後4代目の国産戦車。列国の戦車と比べ、同じ120ミリ滑空砲を搭載しながら重量40トンと軽量化を実現。脱着式のモジュラー装甲により防御力を高めた重量48トンでの運用も可能。

写真提供：杉山 潔

日本の、間に合ったり間に合わなかったりした戦車や戦車じゃない車輌たち えと文/モリナガ・ヨウ



世界のミリタリー博物館探訪記
MILITARY MUSEUMS AROUND THE WORLD

今回の案内人　吉川和篤



PRO FILE　『ガールズ＆パンツァー』においては、OVA「これが本当のアンツィオ戦です!」で本格的な登場を果たしたアンツィオ高校に関係するイタリア戦車関係の監修と資料提供を担当。さらに、旧日本軍の戦車にも造詣が深く、知波単学園の戦車に関する監修や資料提供も担当した。デザイナーを経て、現在はフリーのミリタリーライター＆イラストレーターとして活躍中。主としてイタリア軍、旧日本軍戦車の関連書籍や雑誌連載、Web記事を執筆している。

『ガールズ＆パンツァー』の作品制作に関わった方々に、世界のリアル戦車を訪ねた思い出を語ってもらう博物館探訪記。第3回目の案内人は『ガルパン』ファンからイタリア軍の伝導師として知られる吉川和篤さんが参戦！

実物の戦車を観ないとわからないディテールもあるので、実車を観るのは大事ですね。

杉山　吉川さんと言えば、イタリアの戦車がメインという印象ですが、ハッキリ言うとイタリア戦車ってプラモデルも含めて最近まで人気無かったですよね。

吉川　やっぱり、『ガルパン』以前の日本においては、イタリア戦車の知名度は凄く低かったですね。タミヤからプラモデルが出ていたセモベンテと重戦車のP40しか知られて無かった。そこに、『ガルパン』ではCV33が加わって強い印象を残した感じはしますね。作品に関わったのも、そのOVA「これが本当のアンツィオ戦です！」の監修を担当させていただいたのがきっかけでした。

杉山　イタリア戦車を初めて生でご覧になったのはいつですか？

吉川　最初に観たのは20年位前のイタリアです。リミニというアドリア海側にある軍の基地でミリタリーイベントがあって、そこで豆戦車としては最後の形式になるCV38を観て、実際に乗せてもらったりもしました。それが出会いですね。イベントでは、サンマリノかどこかの民間の博物館や、それこそ個人が所有している車輌を持って来て飾ったりしていて。サンマリノ共和国はイタリアの中にある国なんですが、ガン・コントロールが緩くて、イタリアでは個人所有できない装甲車なんかを持つことができるんです。それが初めて観たイタリア戦車でした。

杉山　そもそも、なぜイタリアにいらしたんですか？

吉川　当時、デザイン会社に勤めていたんですが、体制が変わったのを機に退職しまして。妻は海外に住むのを嫌がったので、私ひとりでイタリアのミラノに移り住んで、イタリアの語学学校に通いながら現地のデザイン会社に通ってデザインの勉強などをしていたんです。その時に、駅で配っていたフリーペーパーを貰って読んでみたら、ミラノにあるリソルジメント博物館という場所で第一次世界大戦のイベントをやると書いてあったので、気になって行ってみました。そこに来ていたミリタリー系のファンの方からリミニでのイベントを教えてもらったのが、イタリア戦車と出会うきっかけですね。

杉山　元々ミリタリーに興味があったんでしょうか？

吉川　ありましたね。それでイタリアに行ったという流れでもあるんですが、リミニでのイベントで本物を観てハマってしまったというか。実際に観たCV38は、人と比べてみてもすごく小さくて。中を観てみたら本当に鉄の棺桶と言えるほど狭かったです。だから、劇場版の時は「絶対にこの中に女子高生3人は入れません」って言ったのを覚えています。

杉山　他にイタリアで実際に戦車を観に行った場所はありますか？

吉川　ミラノから1時間程度の場所にあるベルガモに行きました。ベルガモ出身の砲兵を記念する展示コーナーが、チッタアルタという旧市街の古城にありまして、砲がずらっと並んでいるんですが、そこにセモベンテの実車が置いてあります。セモベンテは砲兵科扱いの車輌で、一緒に飾られていたんですね。ここは博物館ではないので、行けば常時無料で観ることができます。僕が行った頃は、よくわからない砲が取り付けられていたんですが、現在はメーカーが改修して、色もきちんと塗り直されたものが飾られているようです。短砲身の18口径の砲が付いている、アンツィオ高校が使うM41型と良く似たM42型となります。

杉山　イタリア国内ではあまり戦車を観る機会は無いのでしょうか？

吉川　そうですね。チェキニョーラという場所に戦車博物館があるんですが、そこは公開がかなり制限されていて。戦車は残っているんですが、観ることが出来る場所があまりないんです。

杉山　イタリア軍の戦車をちゃんと観たいと思ったら、どこに行くと良いのでしょうか？

吉川　確実にあるのはイギリスのボービントン戦車博物館ですね。CV33の火炎放射型やM14／41中戦車が展示されています。あと、スペインの陸軍博物館。こちらにはCV35が残っていますね。スペイン軍が市民戦争あたりで使った車輌なので、『ガルパン』ではまさに青師団高校の車輌です。ちなみに、ロシアのパトリオットパークにあるCV35はハンガリー軍仕様で、四角いキューポラが付いている。なので、イタリア軍が使っていたものとは形が違うんですが、なぜかイタリア軍のマークが付けられているんです。

杉山　こうやって聞くと、イタリアはいろんな国に戦車を輸出していたんですね。そして、それぞれの異なるタイプが残っているのは凄いですね。

吉川　CV33と35は外貨獲得のために輸出していたんですよね。だから世界のあちこちにあるんですが、まとまった数のイタリア戦車を観たいなら、やはりモスクワのパトリオットパークがオススメですね。『ガルパン』で活躍する他の国の戦車もたくさん飾ってありますし。

杉山　一方で、吉川さんは『ガルパン』では旧日本軍の戦車の監修もされていますね。今でこそ、劇中の活躍のおかげで、旧日本軍の戦車は愛着を持って親しまれる戦車になったわけですが、実はなかなか観る場所が無い。吉川さんは旧日本軍の戦車はどこでご覧に

MILITARY MUSEUMS AROUND THE WORLD

本物だから色んな気付きがあるし、本物の戦車はやっぱり格好いい。その魅力を感じて欲しいです。

なったのでしょうか？

吉川　日本で一番わかりやすくて、観やすいのは、靖国神社の遊就館ですね。ここに、九七式中戦車があります。数年前に全体を細かく直して、色も塗り直すことで当時の雰囲気が再現されました。砲塔にある手摺りのようなアンテナやキューポラの形状、ハッチについているパノラマ式メガネとか、わりと完成度が高くなっています。車体の「星章」も無かったんですが、ノモンハンで戦死した隊長の乗っていた車輌から持ち帰った「星章」を型取りして付けたはずです。考証としても非常に良い形になっていますね。

杉山　日本で完全に近い九七式中戦車を観るなら、遊就館に行けばいいということですね。

吉川　そうですね。ここに飾られているのは、旧砲塔と呼ばれているタイプです。同じ時期にサイパンから引き上げてきた九七式中戦車が静岡の若獅子神社にあるんですが、こちらは修復されず当時のまま飾られています。程度がいい方を靖国神社に持っていって修復したんですが、若獅子神社の方の車輌は改修されず戦争の悲惨さを伝えるためにそのまま飾られているそうです。ただし、屋根はあるんですが、ほとんど野晒し状態で経年劣化が進んでしまっている。神社のご神体でもあるので然るべきところに納めて欲しいなと思いますね。

杉山　九七式の旧砲塔は日本で観ることができますが、新砲塔は国内に無いのですか？

吉川　無いですね。新砲塔は北京の中国人民革命軍事博物館に行くと普通に観ることができます。これは、第二次世界大戦後に中国に鹵獲されて人民革命軍が使ったことで有名な「功臣号」と呼ばれる車輌です。功臣号とされるものは中国国内に2、3輌あってどれが本物かわからないのですが、多分北京のものが本物だろうと言われています。この車輌は前期型車台なので、新砲塔と前期型車台の組み合わせは、まさに『ガルパン』劇中と同じ仕様ですね。ここは、私はまだ観に行くことができていないので、コロナが落ち着いたらぜひ行きたいと思っています。

杉山　その他に日本の戦車を国内で観るとしたらどこでしょうか？

吉川　茨城県の土浦にある陸上自衛隊の武器学校ですね。あそこには、三式中戦車が常時飾られていて、基地祭などがあるとレストアされた八九式中戦車を観ることができます。八九式はかなり手を入れているので、当時のままではないですが、形状の再現度は高いです。三式中戦車は当時のままですね。エンジンの機関室にクラックが入っていたりして、隙間があったりするんですが、ここまできちんと保存されているのであれば、直せば自走もできるんじゃないかといつも思っていました。あと、米国のTVドラマ用のプロップとして本物そっくりに作られた九五式軽戦車は、静岡のカマド自動車に保存されています。

杉山　九五式軽戦車は、ボービントン戦車博物館に置かれていますね。

吉川　かつて京都嵐山美術館にあったものが海外に渡って、その後ポーランドで走行可能状態にレストアされ、現在はボービントン戦車博物館にあるんですよね。クラウドファンディングで日本に戻す資金が集まったので、展示施設が完成したら、日本に帰ってくることも決まっています。

杉山　海外に渡った戦車は「兵器」認定なので、国内に戻すのが大変なんですよね。

吉川　あくまで博物品や展示品として輸入の許可が下りるらしいです。一度ボービントンに置くことで、文化財、博物品という価値が付くからと言われてますね。これが帰ってくると、日本で観られる数少ない日本戦車がまたひとつ増えることになります。ちなみに、九五式はわりと残っていて、ハワイのオアフ島にある陸軍博物館に行くと色がちょっと変な車輌があります。ボービントンには日本に戻る予定の車輌以外も保存されていますし、ロシアのパトリオットパークにもありますね。その他にパトリオットパークには、『ガルパン』のスピンオフ漫画の『リボンの武者』に登場する九七式軽装甲車の37ミリ戦車砲搭載型もあります。

杉山　珍しい車輌も含めて、日本車輌をいろいろ観たいなら、やはりパトリオットパークがオススメなんですね。

吉川　パトリオットパークとクビンカ戦車博物館ですね。どちらも同じ敷地にありますから。私が行ってから数年が経っているので、いろんな車輌がクビンカからパトリオットパークに移されていると思いますが。そして、パトリオットパークの大本命と言えば、『最終章』の第2話と第3話で大活躍した特二式内火艇カミ車ですね。

杉山　パトリオットパークでカミ車に関する、ある発見があったんですよね。

吉川　そうです。『ガルパン』では戦車がひっくり返ったりするので、資料写真を撮る時は車体の「底」も撮影するんです。パトリオットパークに行く直前に、カミ車のCGの最終チェック用のデータが届いていたんです。カミ車はフロートの下に水抜き用の穴が空いているのですが、CGでは前部フロート下にはなかった。でも、現地に行って本物の車輌を観たら、いくつも付いていて。だから、係員に怒られるくらいしつこく車輌の底を撮影しまくって、最終的にはそれをCGに反映することができた。そういう意味では、やはり実車を観に行くのは大事ですよね。

杉山　最後に吉川さんが戦車を観るにあたって「こういう風に観るといいよ」というアドバイスをお願いします。

吉川　戦車は、実際の大きさを体感するとかなり感動すると思います。映像や模型で観ている以上に、ボリューム感や重量感、装甲の厚さなどに驚くと思います。それこそ、九七式中戦車も当時の日本人の背格好からすれば、かなりの大きさですし、そういうのは実際に目の前にしてみないとわからない。本物ならではのいろんな気付きがあるし、本物の戦車だからこそ格好いい。そういうものを感じることができるのが、実物を観る事の魅力です。日本国内にもいくつか観ることができる場所があるので、機会があればぜひ行ってもらえればと思いますね。

聞き手 **杉山 潔**



PROFILE
『ガールズ＆パンツァー』アソシエイトプロデューサー。



愛国者公園（パトリオットパーク）

クビンカ戦車博物館とその母体である愛国者公園（パトリオットパーク）は、ロシア・モスクワ郊外の南西に車で1時間ほどの距離に位置する。前者はソ連軍時代からの戦車試験場に併設した国内外の研究用戦車を展示した資料館だが、愛国者公園は数年前に建設が始まり現在も規模を拡大する巨大な複合施設で、ロシア市民に軍隊との触れあいや広報活動の役割を担っている。そのため、戦車や小銃射撃のシミュレーターが有料で楽しめたり、戦中戦後のソ連／ロシアおよび各国の戦車や装甲車、火砲、戦闘機やヘリコプターに手で触れるように、屋外にも多数展示する軍事アミューズメントパークになっている。

旧日本軍戦車を多数展示！



愛国者公園の日本館に展示される、後期型の特二式内火艇（カミ）。前後に浮き船（フロート）を装着した状態で、実際に見ると幅広で大きな車体が印象的であった。後期型なので前部フロートは左右分離する。底面を撮影した所、前部フロートの下にも給／排水用の円形パーツの存在が新たに見つかり、『最終章』のCGにも反映された。





日本館では珍しい四式軽戦車（ケヌ）も見られる。これは福田も搭乗する九五式軽戦車に火力増強として57ミリ戦車砲装備の九七式中戦車の旧砲塔を搭載したものだが、ここの展示車輌は戦後改造の可能性もある。むらかわみちお先生のスピンオフ漫画にも登場した。



同じく愛国者公園に展示される、九七式中戦車（チハ）の新砲塔。知波単学園の玉田達が搭乗するこの47ミリ戦車砲装備車は、エンジンや装甲を強化した一式中戦車が登場以降も旧日本軍の主力戦車であった。ここの展示車輌には、なぜか海軍陸戦隊の所属を示す旭日マークが多く見られる。



愛国者公園には日本やドイツ以外にも枢軸軍戦車も展示されている。これはイタリアのCV35快速戦車（豆戦車）だがハンガリー軍に輸出されたタイプで、機関銃の防盾は同軍の34/37AM機関銃用に形状を改修されている。また指揮戦車型には、写真の様に車長席側に四角いカゴ状のキューポラ付きハッチが取り付けられている。

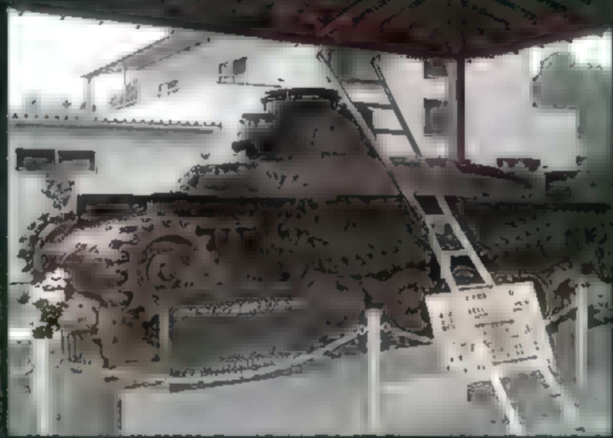


こちらは、さらに珍しい九五式野戦力作車（リキ）。クレーンを搭載した工兵部隊用の機材として開発されたが、起動輪や誘導輪、8個の転輪まで独自設計の贅沢な車輌である。日立製作所などで数十輌生産されたが、戦後のクレーン車と比べて遜色のない構造と言える。

日本で見ることができる旧日本軍戦車



東京・九段の靖国神社に併設された宝物館、遊就館に展示される九七式中戦車(チハ)。57ミリ戦車砲装備の前期型車体で、昭和19年(1944年)6月のサイパン島防衛戦に参加した戦車第九連隊所属車輌で、戦後に同連隊の元戦車兵の故下田四郎氏が、海岸に埋没するチハ車を発掘して日本への里帰りが実現した。5年前再度行われた復元作業で土地色(赤茶)や土草色(濃茶緑)、草色(緑)に黄帯を加えた中期頃の戦車迷彩塗装が再現されている。

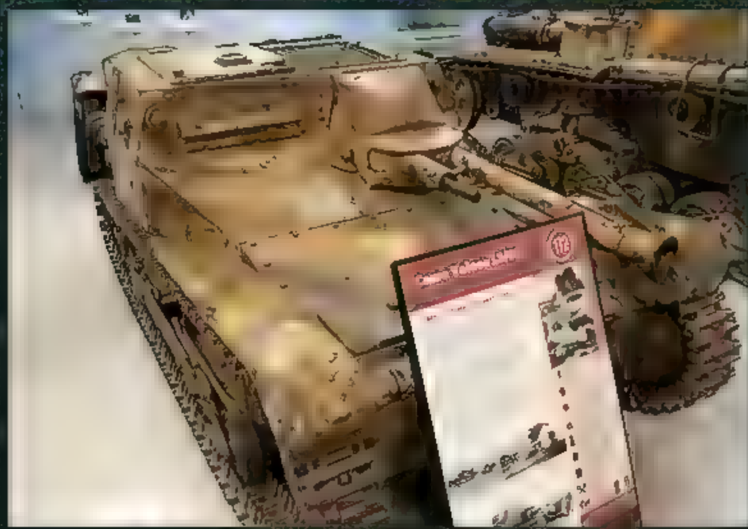


静岡県富士宮市の若獅子神社に奉納、展示される九七式中戦車(チハ)。遊就館の展示車輌と同じ57ミリ戦車砲装備の前期型車体で、サイパン島から里帰りした2輌の内の1輌だが、周囲に壁が無い展示方法のため、近年は風雨による劣化が進んでいる。

各地で見たイタリア戦車たち



イタリア国内のサンマリノ共和国に保存され、近隣のリミニで行われたゴシックライン戦跡での戦史・車輌イベントに登場した、現存して唯一可動するCV38快速戦車(豆戦車)。CV33と比べて足回りが改良された最終型である。人物と比較してあまりにも小さな車体に注目。



イギリスのボービントン戦車博物館で展示されるCV33 Lf(火炎放射器搭載)型と後方の燃料トレーラー。車長席ハッチが開いており、金網越しに車内が見える。北アフリカで鹵獲された車輌で、武装は連装機関銃座の右側にM14/35機関銃が、左側に火炎放射器のノズルが搭載されており、これはLf型の標準装備である。



スペインのマドリード郊外のエル・ゴロッソ陸軍基地内にある装甲車輌博物館で展示される、比較的保存状態の良いCV35後期型。『最終章』で青師団高校も使用する豆戦車は、スペイン市民戦争に参加したイタリア義勇軍が残したもので、その後フランコ軍で使用された。



北イタリアのミラノに近いベルガモの旧市街(チッタアルタ)にある、ロッカ城の広場に展示されるM42 da 75/18セモベンテ(自走砲)。M15/42中戦車をベースにした18口径75ミリ戦車砲装備のセモベンテでは最終タイプとなり、数年前にレストアされている。

編集部が妄想比較！

今スグ欲しい！シーン別ベスト戦車

魅力的な戦車は数あれど、日常生活のシーンによってベストな戦車は変わるはず！　ということで、編集部妄想企画として、「さまざまなシーンで使い分けるなら、どの戦車を選ぶべきか?」を考える座談会を開催！　『ガルパン』アソシエイトプロデューサーの杉山潔を司会に、ミリタリー監修のスタッフ5名が集合。それぞれが持つ戦車知識と偏向する戦車の好みを織り交ぜて、各シーンにフィットする戦車をチョイス！　果たして、ミリタリー監修スタッフたちは、どんな戦車を選び出したのか？　実生活にはまったく役に立たない、妄想全開のオススメ戦車名鑑を楽しんで欲しい。

杉山　まずは、「試合向け戦車部門」ということでお願いします。私としてはシャーマン・ファイアフライ一択かなと思っていますが、皆さんの意見はいかがでしょうか？

吉川　皆さんが普通に挙げるとするならば、攻・走・守のバランスがいい戦車としてパンターかT-34/85あたりになるのかなと。ただ、私自身はイタリア推しですから、あえてここでP40を挙げさせていただきます。P40は『ガルパン』の中では本当の意味での活躍、持ち味みたいなものが描かれていない感じが個人的にはしているんですよね。試合向けにP40を選んだ理由というのは、『ガルパン』に登場する戦車だと基本的には75ミリ砲クラスでないと攻撃力が弱いというのがあるからです。P40に関しては、そこの部分はクリアしているのですが、防御に関しては、前面装甲50ミリ。これは、Ⅳ号戦車の中期型程度の装甲厚しかないんですが、そのおかげで走行性能が高くて、路上で時速40キロ、不整地で25キロのスピードを出すことができて、Ⅳ号戦車を上回っている。そういう意味では、あんこうチームのⅣ号戦車に迫る性能を持っているんです。また、『ガルパン』の戦車は改良によって性能がアップすることもありますので、派生型のP43bisのように、90ミリ砲を搭載する形で強化もできる。なので、P40からP43bisまでの流れから、私はこの車輌を推したいですね。P40は実際のイタリア軍では活躍していないですが、ドイツ軍が鹵獲した車輌がシャーマンを撃破したりして活躍していますし。

岡部　装甲がリベット固定なのがいいですよね。

杉山　続いて、田村さんはいかがですか？

田村　性能だけだとパーシングだと思いますね。火力と装甲ならT28というのもありますが、接近戦が避けられないフィールドになると格闘戦も想定しなくちゃならないので、そうなると旋回砲塔付きの車輌の方が汎用性が高いですから。

杉山　T28は不整地などに弱いということなんですかね？

田村　見通しがいい、ロングレンジで撃てるような長射程を活かせるフィールドであればいいんですが。市街地などだと大変ですね。そういう意味では、性能だけ言えばM26パーシングですね。

杉山　パーシングは米軍戦車ですが、米軍戦車と言えば黙っていられない方がいますね。

丹羽　先に言われちゃったんですけど、私もパーシングかセンチュリオンかなと。どちらも大戦後期に「打倒ティーガー」を目指して作ったものですけど、ギリギリ間に合ったのがパーシングの方で、センチュリオンの方はもうちょっとのところで実戦にはほぼほぼ間に合っていない。ドイツに送っている途中で終戦を迎えてしまって。

杉山　形状から言うと、センチュリオンは次世代っぽい感じがしますね。

鈴木　ずっと使われていますからね。70年代くらいまで使われましたから。

田村　センチュリオンは航続距離の短さがネックですからね。

鈴木　劇場版で愛里寿がなかなか動かなかったのは、航続距離が短かったというのがあったからかもしれませんね。

田村　100キロ走れないんです。機動戦に向いていないという。イギリスが機動戦をあまり考えていなかったんでしょう。大戦後も防御が基本ですし。

杉山　じゃあ、イギリス好きの岡部さんいかがですか？

岡部　やっぱり、『ガルパン』に出て来た戦車に限ってしまえば、センチュリオンかパーシングになりますね。試合向けというならば、チャレンジャーなんかどうですか？　17ポンド砲も積んでいますし。撃たれる前に撃てばいいんですよ。

杉山　聖グロリアーナのチャーチルなんかはどうですか？　それなりに威力もあるんですよね？

丹羽　75ミリ砲ですからね。シャーマンと一緒ですよ。

田村　装甲厚は152ミリありますから。

鈴木　あと、登坂能力もかなりある。

岡部　昔の動画を見ていると、あの細長い胴体でフランスやイタリアの街の中をグイグイ走るんですよね。意外に旋回性能も高くて。

丹羽　メリット・ブラウンという変速機のおかげで旋回性もいいんですよね。

シーン別ベスト戦車選出座談会参加者

岡部いさく
[illegible]

丹羽和夫
[illegible]

吉川和篤
[illegible]

鈴木貴昭
[illegible]

田村尚也
[illegible]

杉山　じゃあ、岡部さん的にはセンチュリオン、パーシング、チャーチルあたりなんですね。鈴木さんはいかがですか？

鈴木　私は『ガルパン』が始まってからドラマCDも含めてずっと、「パンターが最強だ」と言ってきたんですが、その度に水島監督から「パンターは好きじゃないなあ…」って言われ続けています(笑)。

杉山　そうなると、鈴木さん的にはパンターを推さないわけにはいかないと。

鈴木　そうですよ。今回、ようやく『最終章』第3話で活躍したけど、やっぱりやられているという。攻・走・守に優れていると言えばパンターだろうと思っているんですが、あえて使われないという(笑)。

岡部　これまでの間にソ連戦車を推す人はいないんですね。

杉山　ソ連戦車は使い勝手が良さそうですが。1番じゃないにしても、「俺はソ連戦車も推す」という人はいないんですか？

田村　IS-3とかですかね。

鈴木　IS-3はギリギリ大戦に間に合っていますから。でも、劇中に出ていないから、IS-2になるんでしょうね。

田村　結局、戦車道は試合が戦術レベルだから。中戦車って重戦車に比べると戦術レベルでは弱くても、生産資源が少なくて済むとか、戦略的移動力が高いとか、作戦行動の距離が長いとか、戦術次元以上のところでアドバンテージが大きいんです。だけど、戦術レベルだとどうしても重戦車が強いんですよ。シャーマンなどは安くて大量生産ができるから、戦術次元以上のところでアドバンテージがある車輌なんです。

鈴木　さっきのパンターの話も、「安い」ってところが大事なんですよ。数を揃えられるので。

田村　ティーガーがめちゃくちゃ高級車なんですよね。

杉山　強さだけじゃなく「試合にこれを出したい」というのがあれば教えてください。

鈴木　試合向けで出したいなら、ソ連のT-35重戦車を推しますね。多砲塔戦車です。絵にはなりますよね。T-35は多砲塔戦車の中でもちゃんと量産されて、大量にフィンランドに鹵獲された(笑)。

吉川　旧日本軍戦車で真面目にいうと、四式中戦車とかありますが、ネタで言うならオイ車という通称100トン戦車と呼ばれている車輌がありますね。『最終章』第3話で、黒森峰がマウスを先頭にして進撃していたじゃないですか。ああいうのを旧日本軍戦車のパンツァーカイルで、オイ車を先頭にして、四式、五式戦車で固めた知波単学園というのを1度くらいは見てみたいですね。オイ車はほとんどまともに動かないと思いますが、それがばく進する絵は見てみたいですね。

鈴木　まあ、埋まって動かなくなって爆砕して終わりかと思いますが(笑)。

杉山　じゃあ、次は面白いネタが出そうなファミリー向け戦車に行ってみましょうか。

丹羽　私は、ファミリー向けならば小さい方がいいだろうと思いまして。大きい車庫を持っている家はそうそう無いと思うので。そうなると軽戦車だなと。

田村　私は、発想が全然逆でした。大家族でも乗れるような感じで、さっきも名前が出たT-35とかいいかなと思ったんですが、多砲塔戦車なので砲塔ごとに家族がバラバラになるのであまり良く無いなと。で、思い付いたのが、ドイツが第一次世界大戦に使ったA7Vとか。あれはワンルームなので。

鈴木　ワンボックスカー的な感じですね。

杉山　なるほど。丹羽さんの話に戻りますが、具体的な車輌としては？

丹羽　車庫に入るってことで、M22ローカストとかMk.Ⅵ軽戦車テトラークとか。空挺戦車のハ型のタイプですかね。

杉山　遠出するならいいかもしれないですね。グライダーで運べるし。そして、田村さんはA7Vだと。

田村　大きい戦車ですね。あれは、17人乗りですから。一族が乗って法事ができるという(笑)

岡部　子供は窓を開けたがるので、ハッチがたくさんある戦車はどうだろ

オススメ試合向き戦車

『ガルパン』の世界における戦車道のルールに則って選出されたベスト戦車には、田村さんと丹羽さんが1位に推したM26パーシングが輝いた。走行性能や砲撃能力などトータルバランスの高さと大戦末期に登場した完成度の高さがポイント。その他は、好みの戦車を推していく形に。イタリア好きの吉川さんはアンチョビの愛車P40、イギリス好きの岡部さんはダージリンの乗るチャーチル歩兵戦車を選んだ。鈴木さんは生産性、防御性能、攻撃力で安定した強さを持ちながらも、『ガルパン』では不遇な扱いを受けているパンターを推している。

田村&丹羽オススメ
M26パーシング

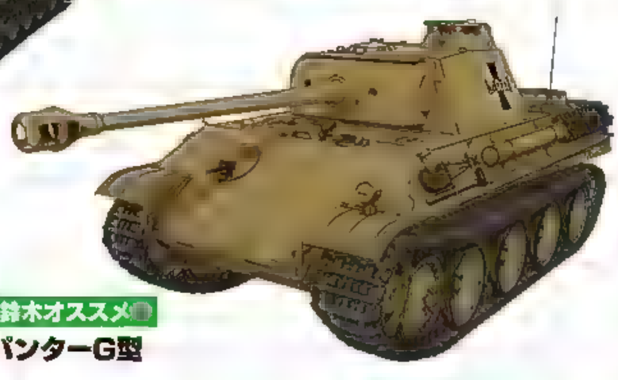




岡部オススメ
チャーチル歩兵戦車

吉川オススメ
P40型重戦車





鈴木オススメ
パンターG型

う？　そういう意味だと、Ⅳ号戦車なんかはハッチがたくさんあるからいいですよね。

丹羽　ハッチがたくさんあるとなると、M3リーとかもそうですね。

岡部　中が広くて3階建てみたいな感じですよね。子供が喜びそう。

吉川　家族が何人いるかでファミリー向けの定義が変わってきますね。

杉山　それはそれぞれで決めてもらう形になりますね。吉川さんはどの戦車ですか？

吉川　僕はできるだけ大きいのがいいなと思っていて。さらに『ガルパン』に登場したとなると、やはりM3が家族向けっぽいですが、TVシリーズの戦車カフェで呼び鈴に使われていたイタリアのフィアット2000という重戦車がいいかなと。フィアット2000は10人乗りなんです。回転砲塔も付いていますし。時速7キロでゆっくり走れて楽しいかなと(笑)。

杉山　ファミリーと言えば、みんなで手分けして協力するのも大事ですよね。操縦手が2人いて、変速係や機関士もいる菱形戦車のMk.Ⅳも有りのような気もするんですが、イギリス好きの岡部さんとしてはいかがですか？

岡部　『ガルパン』には登場しなかったんですが、私が思うファミリー向けと言えば、ユニバーサルキャリアですね。後ろに荷車を取り付けて引っ張れば、キャンプなんかにも最適ですし。

田村　戦車じゃなくて、装甲車ですけどね(笑)

鈴木　私は、ファミリーカーの鉄則は、「ミニバンであること」、「ハイブリッド車であること」、「できれば四角い」ってことでエレファントですね。ファミリーカーとしての全部の条件を揃えているんじゃないかなと。航続距離は150キロですけどね(笑)。

岡部　最近だとちょっとヤンキー風のタチの悪いワンボックスに乗った人がいるじゃないですか。エレファントだとそういう感じに近いですよね。

鈴木　もう、そういう感じですよ。何かあればクラクションを鳴らせばみんな避けますからね(笑)。多少事故っても他のクルマが潰れるだけで安全だし、さらに6人乗りで、砲弾を抜けば中は広々していますし。

杉山　寝る場所を作って車中泊も余裕でできるわけですね。でも、本当に皆さんの家族観が判っていいですね。大人数が乗れるのもいいけど、車庫入れしやすいというのも大事ですから(笑)。じゃあ、次のドライブ向け戦車部門はいかがですか？

吉川　ドライブデートするのであれば、やはり豆戦車のCV33がオススメですね。やっぱり、「2人乗り」というのが大事なんですよね。FT-17も2人乗りですが、前後に並んだタンデムタイプなんです。横並びで二人が操縦するタイプの戦車はこれしかない。さらに、『劇場版』をご覧の方は知っていると思いますが、CV33は遊園地のジェットコースターのレールにもそのまま乗れるので、遊園地デートにも最適です(笑)。あと、CV33は派生車輌がいくつかあって、架橋車、つまり橋をかける戦車もありますから。自分で架けた橋を自分で渡ることができるんです。長さは7メートルまでいけるんですが、幅が狭くてCV33でしか渡ることができず、採用が見送られました(笑)。でも、こういう車輌もあるので、不整地に行って橋をかけてデートするということもできます。横に並んで乗って、ふたりの距離が縮まるのはCV33だけですよ。

杉山　でも、最近の若い人はスポーツカーのような狭いクルマには乗りたくないという話がありますが、そうなるとドライブデート向けにはどんなのがいいでしょうね？

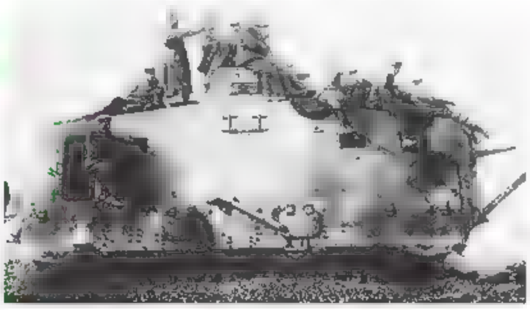
田村　そもそも戦車はドライブに向かないですからね(笑)。それでもドライブデートに行ってくれる女性は、戦車が好きとか、運転が好きとかいう方だと思うので、そうなるとやはりスピード重視ですよね。『ガルパン』には出てこないんですが、ソ連のBTツイガノフは履帯の周りに数珠つなぎの転輪を巻いて、その外側にさらに履帯を巻くことで、最高速度が105キロまで行けるという理論を基にした車輌が検討されていたんですが、構造が複雑すぎて実現しなかった。多分、これが一番スピードが出ると思います(笑)。

吉川　特殊な履帯と言えば、旧日本軍が「湿地車」というのを開発していて。この車輌は履帯の鉄板の部分がカポックになっているんです。これで湿地の上を進めると。海辺を観光するとか、マリンレジャーや釣りの時にはオススス

オススメファミリー向け戦車

ファミリー向け戦車は、それぞれの判断基準が異なっていたため、さまざまなタイプの戦車が登場。丹羽さんは「家族向けは駐車場に止めやすいタイプ」と判断し、田村さんや鈴木さんは「大人数の家族で乗れる大型のもの」に別れることに。話を進める中で、やはり家族数人で乗れるものという方向にまとまり、丹羽さんはハッチが多くて広いM3リーを、吉川さんは大型のイタリア戦車FT2000、田村さんは第一次世界大戦のドイツ軍の戦車A7Vをチョイス。鈴木さんは広くて乗りやすく、ちょっと厳ついミニバン風ということでドイツ軍のエレファントを選んだ。

田村オススメ
A7V



写真提供：グランドパワー（ガリレオ出版）

鈴木オススメ
重駆逐戦車エレファント



吉川オススメ
フィアット2000


写真提供：吉川和篤



丹羽オススメ
M3中戦車リー

メですね。

杉山 じゃあ、丹羽さんはどうですか？

丹羽 ドライブデートと言えば、さっきのスピードの話になりますが、M24チャーフィーが56キロ、クロムウェル巡航戦車だと64キロ。

杉山 M24は乗り心地が良かったんですよね。

丹羽 そうなんですよ。あれはキャデラックが作りましたからね。

鈴木 私もそれを選んでいたんですよ。やはり、キャデラックが作っていて、V8ツインエンジンで。さらに乗り心地が良くて、前には二人並んで乗れますから。だからデートカーとしてはいいんじゃないかと。

田村 中も見た目の印象より広いんですよね。

丹羽 あと、天面装甲が無いのが許されるならM18ヘルキャットですね。80キロ出るんですよ。ちなみにM18はビュイックが作っていますからね。

杉山 あれ、オープンカーですね（笑）。

田村 でも、戦車道はオープントップがダメなんですよね。

杉山 アメリカ戦車は自動車大国が作ったから、走りの上では信頼性が高いですよね。

丹羽 エンジンの耐久性も高いですし。壊れないですから。

鈴木 しかも航続距離が長いので、ちょっと遠出しても全然心配はいらないですね。

岡部 イギリスもロールスロイスがエンジンを作っているんですよ。エンジンだけですけど（笑）。

鈴木 あと、速いだけで言ったらクルセイダーもいいですが。

杉山 その他だと、特二式内火艇（カミ車）はさっきの湿地戦車よりも海のレジャーに向いていますね。

鈴木 後ろのハッチも広いので乗り降りもしやすいですね。

杉山 結構沖合まで行けそうですしね。

田村 普通の水陸両用戦車は河川とか湖とか、波の静かな水面を走ることを目的にしているんです。海を走ることを考えたのは、日日本海軍とアメリカ海兵隊くらいですから。釣り女子はカミ車でドライブデートがいいかもしれないですね。

杉山 そうなると、ようやくここで旧日本軍戦車にスポットが当たりましたね。ここまで話をした感じだと、デートの目的に応じて戦車は使い分けるというのが結論なのかもしれないですね。他にデート向きで何かありますか？

岡部 可愛い戦車はどうですかね？『ガルパン』には出なかったですが、ヴィッカーズMk．V軽戦車なんて可愛いですよ。

杉山 確かに可愛い戦車というのは有りですね。

田村 フランスのAMX40はアヒルみたいで可愛いですね。アヒルのガワを被せなくてもアヒルですね。

杉山 吉川さんは何かありますか？

吉川 九五式軽戦車に九七式中戦車の初期の砲塔を乗せたキメラみたいな戦車があるんです。四式軽戦車ケヌというんですが。これに近い戦車がクビンカにあるんですけど、本物を観ると頭デッカチでデフォルメした戦車になっていて、可愛いですね。

丹羽 M7中戦車ですね。最初は軽戦車で規格を作っていたんですが、最終的に武装を75ミリ砲にしろとか言われて、どんどん重くなって。これも頭デッカチになって、シャーマン戦車をデフォルメしたような形なんですよね。

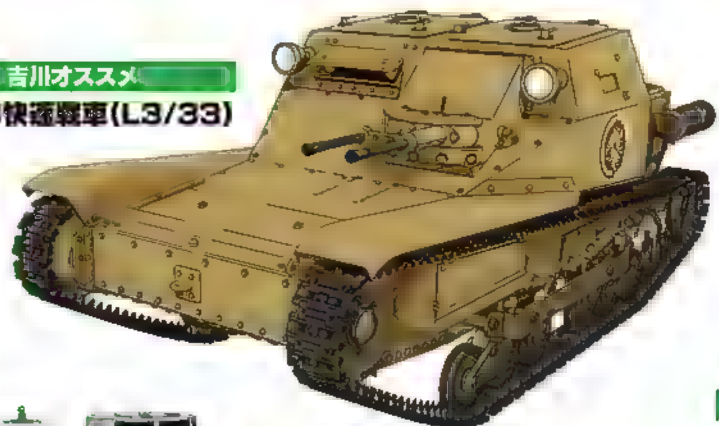
鈴木 ヘッツァーは普通に可愛いんじゃないですか？ 亀の子みたいで。スイスで使われた防塵の丸い感じもいいですし。ヘッドライトも大きくなってもっと可愛くなりますよね。

杉山 ありがとうございました。読者の皆様も、デートや家族での行楽にお悩みの際、ぜひこちらを参考にして下さい。

一同 （笑）

オススメドライブ向き戦車

ファミリー向けから一転して、ドライブデート向けという判断から小型の戦車が多数候補に挙がる展開に。終始イタリア戦車にこだわり続ける吉川さんは、二人乗りのCV33をプッシュ。丹羽さんと鈴木さんは、スポーツカーを思わせる軽快な走りと乗り心地の良さ、そして壊れにくいエンジンなどを総合してM24チャーフィーを推している。一方、田村さんは海上や水上を進むことができる汎用性の高さをレジャー向けと判断して、水陸両用の特二式内火艇を選んだ。



吉川オススメ
CV33快速戦車（L3/33）



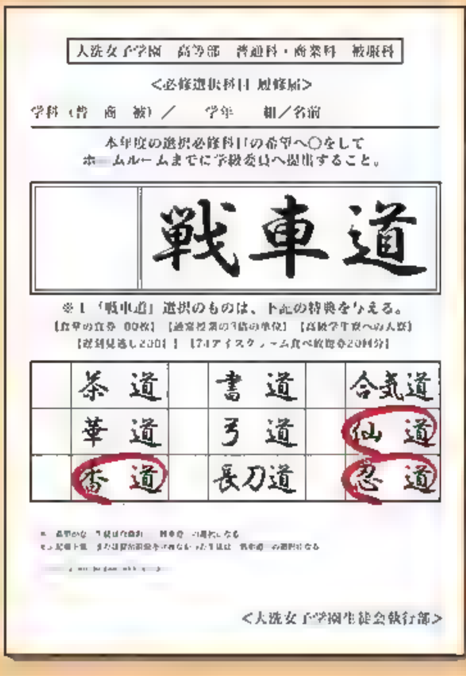
丹羽＆鈴木オススメ
M24チャーフィー



田村オススメ
特二式内火艇（カミ）

大洗女子学園 必修選択科目

忍道・仙道・香道、調べます


大洗女子学園　高等部　普通科・商業科　被服科

<必修選択科目 履修届>

学科（普　商　被）／　学年　組／名前

本年度の選択必修科目の希望へ○をして
ホームルームまでに学級委員へ提出すること。

	戦車道

※1「戦車道」選択のものは、下記の特典を与える。

	茶道		書道		合気道
	華道		弓道		仙道
	香道		長刀道		忍道

<大洗女子学園生徒会執行部>

大洗女子学園の必修選択科目には〈忍道〉〈仙道〉〈香道〉があります。あまり聞き慣れないので「なんだろう?」と思った人も多いはず。そこで、それぞれの専門家に理念や活動内容についてお聞きしました。

構成　米田政行（Gyahun工房）

忍者学校の人に聞く

忍道

なるべく戦わずに平和な世を実現する



日本忍者協議会
企画開発担当
福島嵩仁さん

〈忍道〉を実践する忍者。映画やマンガなど、物語の世界ではおなじみだけど、実際はどんなことをしていたの?　現在、忍者教室も主催している日本忍者協議会の福島嵩仁さんにお話を伺いました。

——そもそも〈忍道〉とは、どういうものなのでしょう?

〈忍道〉=「戦いの術」と思っている人がとくに海外には多いのですが、大きな誤解です。〈忍道〉の理念は「忍を以て和を成す」。つまり、敵から情報を集め、できるだけ戦わずに平和を維持することが〈忍道〉の目的なのです。〈忍道〉という名称が登場したのは、江戸時代(1600年代)に書かれた忍術書『忍道梯階論』とされていますが、そこでは武術(戦い)については述べられていません。

〈忍道〉には、「陰忍」と「陽忍」のふたつがあります。「陰忍」とは、姿を隠しながら敵地に忍び入り情報を収集すること。これはふつうの人がイメージする忍者の振る舞いに近いと思います。一方「陽忍」は、敵に姿をさらしながら相手の懐に入り情報を得ます。〈忍道〉では「陰忍」「陽忍」の両方を学びます。

——〈忍道〉では、どのような修行を行うのでしょう?

まずは呼吸法を会得することがすべての基本となります。潜入活動の際に敵にバレないよう息を整える訓練です。ほかに視力や聴力を鍛えます。レンガの上に針を落としてもらい、目をつむったままその本数を当てたりします。ほかにも、食事をせず何日も耐えたり、極寒の中で裸になったりと、体を鍛え、自分の限界値を上げる修行があります。

また「陽忍」では、人心掌握術も訓練します。相手にお酒を飲ませ、よい気分にして秘密を聞き出す方法などを学ぶのです。

——高校で〈忍道〉の授業が行われるとしたら、どんな内容になるでしょう?

まずは山に入ってサバイバルゲームを行う活動が考えられます。〈忍道〉は、チームで行動することが重要になりますから、リーダーシップや連携プレイのしかたなどを身につけていきます。

「忍び六具」と呼ばれる持ち物も作ります。金属を加工したり薬草を調合したりして、自分で鉤縄や薬などを用意するわけです。これは理科や美術(技術)にも通じる学びになると思います。

〈忍道〉においては座学も大切です。敵に勝つには知識や教養が必要で、国の成り立ちや歴史、社会情勢といった「社会科」のような授業も行われるでしょう。敵の数を正確に数えたり、堀の深さや塀の高さを測ったりと、忍術書では「算数」の習得についても触れられています。

——これから〈忍道〉を学ぼうとしている人へアドバイスをお願いします。

今後、日本ではさまざまな災害に見舞われる可能性があります。イザというときには〈忍道〉のサバイバル術が役に立つはずです。

また、敵地に侵入するために精神を集中させる方法は、勉強や仕事のパフォーマンスを上げるのに効果がある、とする研究結果もあります。さらに、人の心をつかむコミュニケーション方法を身につければ、学校や職場で良好な人間関係を築けるでしょう。日常生活に使える技術もたくさんありますので、ぜひ〈忍道〉に入門してみてください。





日本忍者協議会
https://ninja-official.com
〈忍道〉への入門者を随時募集中

写真提供：日本忍者協議会



早稲田大学文学学術院
文学部教授
森 由利亜さん

自然を慈しみ心を清めて不死の生命をめざす

仙道

**〈仙道〉とは、仙人になるための道……そもそも仙人って何？
早稲田大学文学学術院の森由利亜教授にお聞きしました。**

――「仙人」や〈仙道〉とは、どういうものなのでしょう？

〈仙道〉とは簡単にいえば「永遠の生命、不死を求めること」です。大昔、東の海の彼方に「三神山（さんしんざん）」という島々が、西の果てには「崑崙山（こんろんさん）」と呼ばれる山があるとされ、そこに不死の生き物や不死の人が棲んでいると考えられていました。これが「仙人」の原型です。秦の始皇帝が、不死の生命を得て永遠に国を治めようと、仙人を探させたとされています。

〈仙道〉の理念は「老荘思想」から大きな影響を受けています。この世の生命や自然は〈道〉から生み出されている。仙人になって不死の生命を獲得し、〈道〉を得ようと考えたのです。

――〈仙道〉では、どのような活動が行われたのでしょう？

仙人をめざすのは、〝世捨て人〟のような人たちでした。当時は戦国の世ですから、何かあれば自分たちは殺される。社会のありかたに疑問を持ち、山の中でひっそりと生活することを望んだのです。

山の中ですから、お米が採れません。「辟穀（へきこく）」と言って、穀物を避けながら、栄養価の高い木の実や薬草を食べていました。

また、鉱物を化合して合金を作ったりもしていたようです。合金は現代では安っぽいイメージがありますが、当時は「この世にないもの」つまり「深い次元からこの世界に現われたもの」として珍重されました。

10世紀ごろになると、「内丹（ないたん）法」と呼ばれる一種の錬金術も行われました。体内に純粋な気を精製し、それを体中にめぐらせて「金丹（きんたん）」を作ります。金丹を鍛錬し熟成させることで、宇宙本来の生命を自分の中に取り戻す。すると、昇天できる（仙人になれる）などと考えたのです。

――高校に〈仙道〉の授業が導入されたら、どんな内容になると思いますか？

ひとつは、仏教の座禅のような活動が想像できます。静かな教室に閉じこもり、心を研ぎ澄ます訓練をするわけです。

ほかには、合金を作ったり、薬品を扱ったりするので、化学の実験のような授業も展開できます。

中国の伝統的な楽器を演奏したり、美術を鑑賞したりといった活動も〈仙道〉には欠かせません。

――これから〈仙道〉を学ぶ人にアドバイスをお願いします。

激烈な競争社会である中国では現在、〈仙道〉が見直されています。勉強や仕事による心や体の不調は〈仙道〉の実践によって改善されていくかもしれません。〈仙道〉では、自然なものを大切にします。まずは、植物や動物、水、空気を慈しむ〝エコロジー〟の意識を持つことから始めてはいかがでしょうか。



©TETSU - stock.adobe.com



香道志野流・茶道表千家 門弟
麻布 香雅堂 代表
山田悠介さん

© TATSUYA "doobie" MINE

ゲームを楽しみながら香りと日本文化に浸る

香道の門弟に聞く

香道

**〈香道〉は、どうやって香りの道を極めるの？
香道志野流の山田悠介さんに教えていただきました。**

――〈香道〉とは、どういったものなのでしょう？

10人ほどが集まり「香木（こうぼく）」の香りを聞き分ける遊びをするのが〈香道〉です（香りを「かぐ」ことを「聞く」と表現します）。この遊びを「組香（くみこう）」と呼びます。それぞれテーマがあり、日本の文学や古典、季節をイメージする香りを用意します。そのイメージとともに香りを楽しむのです。

〈香道〉は室町時代の終わりごろに華道や茶道といった伝統芸能とともに生まれたとされます。ただ、華道などと比べると、〈香道〉はゲームの要素が強いのが特徴です。

また、香木はとても貴重なため、権力の象徴でもありました。奈良の正倉院には「蘭奢待（らんじゃたい）」という香木が収められていて、これは織田信長や足利義政、明治天皇のみが所有していたとされています。

――〈香道〉は、どんな能力を得るために行われるのでしょう？

〈香道〉にはさまざまな流派がありますが、何かしらの能力の獲得をめざしている流派はないと思います。「聞き分け」の力を高めることも目標とはしていません。段位制度も定められていますが、お弟子さんを昇格させるかどうかは、先生（教授）が総合的に判断しています。組香では厳格な所作も決められているのですが、あくまで香りを楽しむことを目的としているのです。

――選択科目として〈香道〉を設けている高校もあります。どんな授業が行われているのでしょうか？

私の母が実際に高校で〈香道〉を教えておりました。授業で行うのは組香です。やり方は正式なものと同じで、香をたく「香元」、成績を記録する「執筆」の係を決めたら、ほかの人は遊びの参加者となります。手順に従い順番に香りを聞き、答えを紙に書いて、最後に答え合わせをします。学習の目標は、やはり香りをうまく聞き分けることではなく、香りとともに日本文化の世界観に親しむことです。

高校の〈香道〉は選択科目なので、香りや日本文化に興味がある生徒が参加しています。また組香そのものもゲーム感覚で取り組めるので、生徒さんの授業に対するモチベーションはとても高いようです。

――これから〈香道〉を学ぼうと思っている人にメッセージをお願いします。

〈香道〉では、人間の五感のうち嗅覚に全神経を集中させます。これにより、感性が磨かれていく効果が期待できます。絵を描いたり、音楽を演奏したりといった創作活動をしている人には、とくにおすすめしたいと思います。ぜひ一度〈香道〉を体験してみてください。



写真提供：香雅堂

麻布 香雅堂
http://www.kogado.co.jp/
〈香道〉の体験教室を開催中

プロが考えた おいしい

キャラ弁、つくります

お弁当制作 神 みよ子

「腹が減っては戦はできぬ」と申します。戦車道においても食事はとっても大切。
せっかくのランチタイムですから、楽しくいきましょう。
今回は『ガルパン』のおいしいキャラ弁をつくります！

撮影：近藤悠喜／スタイリング：伊藤由美子／制作進行：佐々木俊宏（Prints21）／構成．米田政行（Gyahun 工房）

パンツァーフォー！

上級者向け

あんこうチーム戦車のハンバーグ弁当



戦車をハンバーグでつくることで、立体感とボリューム感のあるお弁当に。劇中の迫力を再現します。ご飯には青菜を混ぜ、戦いの場である森をイメージ。大きさの異なるソーセージを使い、足周りもリアルに仕上げます。トレードマークの「あんこう」のエンブレムと「大洗女子学園」の校章も丁寧につくりこむのがポイント。

MENU

- 戦車のハンバーグ
- 青菜ご飯

3つの色合いが
かわいらしい！

ボコのそぼろ弁当

中級者向け



ボコの体を肉そぼろでつくり、フワフワ感を表現。肉そぼろと、“包帯”のハンペンとの取り合わせが食欲をそそります。肉・卵の甘味と、絹さやいんげんの塩味が口の中でおいしく調和。3つの色合いが見た目も楽しませてくれます。

MENU

- ボコの肉そぼろ
- 卵そぼろ

だれでもサクッとつくれる！

あんこうののり弁当

初級者向け



「あんこう」は、スパムをコップやお茶わんで型抜きするだけ。お料理の初心者でも簡単にかわいいキャラクターがつくれます。のりの上に「あんこう」をのせて、深海で泳いでいる様子をイメージ。付け合わせのミニトマトやキウイフルーツも、切って詰めるだけの手軽さです。

MENU

- あんこうのスパムステーキのりご飯
- ミニオムレツ
- ミニトマト
- キウイフルーツ

あなたにもつくれる！キャラ弁レシピ

腕に自信のあるあなたは「戦車」、料理が苦手なら「あんこう」から、キャラ弁づくりに挑戦してみましょう！

上級者向け

あんこうチーム戦車のハンバーグ弁当



青菜ご飯

●材料

かぶの葉…3本
塩…少々
ご飯…適量

●つくりかた

①かぶの葉はみじん切りにし、塩をふりかけて、揉みながら水気を絞る。
②ご飯に①を加えて混ぜる。

戦車のハンバーグ

●材料

玉ねぎ(みじん切り)…大さじ1
バター…小さじ 1/2
サラダ油…大さじ1
きゅうり(皮の部分)…適量
スライスチーズ…適量
ハム…適量
のり…適量
ソーセージ(細切り)…1切れ
ソーセージ(太め／輪切り)…2切れ
ソーセージ(細め／輪切り)…9切れ
ほうれん草(茹でたもの)…2本
ゆで卵(輪切り)…1切れ
にんじん(茹でたもの／細切り)…適量
コーン…適量

A
合い挽き肉…100g
溶いた卵黄…大さじ1
ナツメッグ…少々
塩、こしょう…各少々
パン粉…大さじ1
トマトケチャップ…小さじ1

●つくりかた

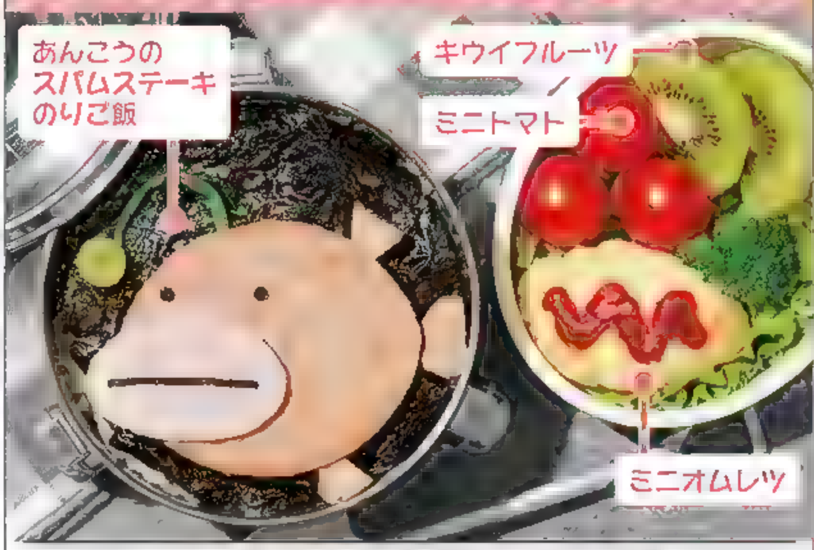
①耐熱容器に玉ねぎとバターを入れ、ラップをせずに電子レンジ(600W)で30秒加熱する。
②ボウルにAを入れて粘りが出るまで手で練り混ぜ、①を加えてよく混ぜる。
③手で「戦車」のボディの形に丸める。
④フライパンにサラダ油を中火で熱し、③をのせて中火にして焼く。焼き色がついたら裏返す。弱火にしてフタをし、さらに5～7分焼く。
⑤きゅうりとスライスチーズをカットして「校章」をつくる。ハムをカットして「あんこう」の形をつくり、のりで「目」をつくって付ける。
⑥ソーセージをサラダ油(分量外)を熱したフライパンで炒める。
⑦お弁当箱に「青菜ご飯」を詰め、④をのせて形を整えたら、細く切ったのりを貼り付け「つなぎ目」をつくる。
⑧⑥のソーセージ(細切り)とソーセージ(細め／輪切り)をのせて「主砲」をつくる。
⑨⑦の「戦車」に⑤をのせる。
⑩⑦の「戦車」の下部に⑥のソーセージ(太め／輪切り)2切れ、ソーセージ(細め／輪切り)8切れを並べ、ほうれん草で囲んで「足周り(無限軌道)」をつくる。
⑪お弁当箱の右上にゆで卵とにんじんをのせて「太陽」をつくる。下方にコーンを敷き詰める。

ワンポイントアドバイス

ハンバーグの肉は焼くと縮むので、形をつくるときは少し大きめに。「戦車」のボディや「足周り」を詰めるときは、ご飯に押し込むようにして固定しましょう。

初心者向け

あんこうののり弁当



あんこうのスパムステーキのりご飯

●材料

スパム…適量
サラダ油…適量
ご飯…適量
かつお節…2つまみくらい
しょうゆ…少々
のり…適量
ハム…1/2枚
ほうれん草（茎／茹でたもの）…1本
たくあん（丸く切ったもの）…1切れ

●つくりかた

①スパムを1cmくらいの厚さに切り、丸型（カップや茶碗など）を使ってやや楕円に抜いて「体」をつくる（型を上にずらしもう一度抜いて楕円にする）。「尾」と「ひれ」の形にも切る。
②フライパンにサラダ油を中火で熱し、①の両面を薄く焼き色がつくくらいまで焼く。
③お弁当箱にご飯を詰め、かつお節をのせて、しょうゆをふりかける。のりをちぎってのせてご飯を覆う。
④③に②をのせ、ハムを「口」の形に切ってのせる。キッチンバサミでのりを「口」と「目」の形に切って貼り付ける。ほうれん草とたくあんをのせて「提灯」をつくる。

ミニオムレツ

●材料

卵…1個
塩、こしょう…各少々
スライスチーズチーズ…1/2枚
サラダ油…少々
トマトケチャップ…適量

●つくりかた

①ボウルに卵を割り入れ、塩、こしょうを加えて溶く。スライスチーズをちぎって加えて混ぜる。
②フライパンにサラダ油を中火で熱し、①を流し入れて箸で手早く混ぜる。半熟状になったらラップにのせて茶巾に包み、形を整えてそのまま冷ます。
③トマトケチャップを絞る。

ワンポイントアドバイス

「あんこう」の目の形を丸くするのが難しい場合は、のりをスパムにのせて柔らかくなってから楊枝で丸く整えるとうまくいきます。

中級者向け

ボコのそぼろ弁当



卵そぼろ

●材料

卵…1個
砂糖…小さじ1
酒…小さじ1/2
塩…少々

●つくりかた

①小鍋に卵を割り入れ、調味料もすべて入れて箸で混ぜ合わせる。
②①を火にかけ、箸を手早く動かし、全体を混ぜながら加熱する。そぼろ状になったら火を止める。

ボコの肉そぼろ

●材料

豚ひき肉…80g
めんつゆ（3倍濃縮）…大さじ3
ご飯…適量
おかかご飯（ご飯にかつお節としょうゆを混ぜたもの）…大さじ1
のり…適量
はんぺん…適量
スライスチーズ…適量
ほうれん草（茹でたもの）…適量
黒豆甘煮…1粒
ハム…適量
絹さや（茹でたもの）…6枚
にんじん（茹でてハート形に抜いたもの）…5切れ

●つくりかた

①鍋に豚ひき肉とめんつゆを入れて箸で混ぜる。
②①を中火にかけ、かき混ぜながら汁気がなくなるまで炒る。
③お弁当箱にご飯を詰める。②を「ボコ」の形にしてのせる。「右耳」におかかご飯を丸めてのせ、細く切ったのりをのせて「縫い目」にする。「右足」にご飯を丸めてのせる。「左足」にご飯とおかかご飯を丸めてのせ、細く切ったのりをのせて「縫い目」にする。
④はんぺんを「左耳」と「リボン」の形に切ってのせ、細く切ったのりを貼って「包帯」にする。はんぺんで右手と左手の「ギプス」と「三角巾」をつくってのせ、細く切ったのりを貼る。
⑤スライスチーズとのりで「口」をつくってのせる。ほうれん草で左目の「アザ」をつくってのせる。黒豆を切って「鼻」と「目」をつくってのせ、スライスチーズを丸めて目の「光」をつくってのせる。ハムとのりで「傷テープ」をつくってのせる。
⑥絹さやは斜め千切りにしてお弁当箱の下部に敷き詰める。ボコのまわりに「卵そぼろ」を敷き詰め、にんじんの「ハート」をのせる。

ワンポイントアドバイス

肉そぼろはスプーンでのせ、輪郭はバターナイフで整えるのがコツ。卵そぼろは、肉そぼろが動かないようキッチリと詰めて、上からスプーンの背で押しましょう。

あなたはどの車輌？

DOKiDOKi 戦車タイプ診断!!

『ガールズ＆パンツァー』の劇中に登場してきた数多くの戦車たち。
それぞれのチームが戦車の特性を理解し
最適な戦術を繰り広げてきたことからもわかるように
戦車にもひとつひとつ　異なる性格や個性があります。
あなたを戦車に例えたら？
「YES」「NO」で質問に答えて自分の戦車タイプを診断しましょう！

YES
NO



START
[illegible]

チームプレイが得意ではない

自分だけのジンクスがある

おにごっこよりかくれんぼが得意

実はスゴいギャップを持っている

TYPE J



主役よりも裏でサポートする役回りが落ち着く



告白はするのではなくさせるほう



口の堅さには自信がある



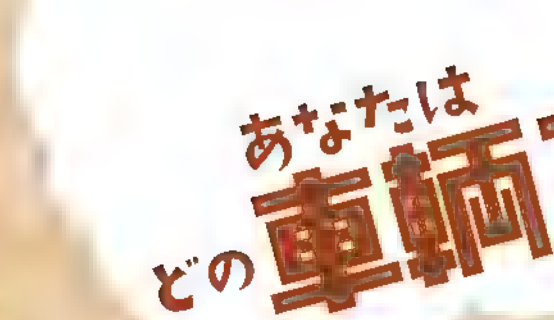
初対面の人に壁を作ってしまう



勝手にあだ名で呼ばれがち



TYPE I







TYPE A ← 小学校時代からの親友がいる ← 約束の時間は自分が調整する ← 同性の友人は少ないほう ←





TYPE B ← 思いついたら見切り発車 ← 年上より年下に好かれる ← 束縛されるのが苦手 ←





TYPE C ← 尽くすよりも引っ張るタイプ ← 流行り物にはあまり興味がない ← 恋人と連絡が取れなくても平気 ←





TYPE D ← ストレス発散は筋トレ ← 愛されるより愛したいタイプ ← 新しいお店を開拓するのが好き ←





TYPE E ← 太く短く生きたい ← イライラしても顔に出ない ← 怒られている理由がわからないことがある ←





TYPE F　TYPE G　TYPE H

Doki♪ あなたはどの戦車？
次のページでチェック!!

TYPE A

人当たりがよく嫌味のない人気者

M4A1シャーマン 76mm砲搭載型



操作性に定評のあるM4シャーマンシリーズの中でも、防御力と攻撃力のバランスに優れたA1。誰とでもすぐに打ち解ける、人気者のあなたのよう!

TYPE B

責任感が強く粘りづよい努力家

CV33快速戦車(L3/33)



小回りが効いて足が早く、大戦中も移動機関銃座として全戦線で活用されたCV33。ひたむきに自分の仕事をこなす姿は努力家のあなたそのもの。

TYPE C

感受性豊かで繊細な共感力

ポルシェティーガー



時代の空気に敏感なあなたは、ハイブリッド方式が斬新なポルシェティーガー。優れた感受性で高い共感力を発揮し、老若男女にモテモテのはず!

TYPE D

お人好しでやさしい縁の下の力持ち

II号戦車F型



困っている人を影でそっと支えるあなたは、機動力と軽快性でドイツ軍を支えたII号戦車F型のよう!大きな愛とやさしさで周囲をなごませます。

TYPE E

自分に厳しい完璧主義者

巡航戦車 A41 センチュリオン



あなたは重装甲重武装と機動力を両立し、不整地での活動にも強いA41センチュリオン。どんな時も勝ちに行く姿勢を崩さない、完璧主義者です。

TYPE F

穏やかでマイペースな包容力の人

カール自走臼砲



深い包容力を持つあなたは、パワフルな 600ミリ砲がここぞという時に頼もしいカール自走臼砲。そこにいるだけで周りの人に安心感を与えます。

TYPE G

無邪気で天真爛漫な自由人

BT-42 突撃砲



自由な感性を大切にし、気の向くままに生きるあなたは、履帯を外せば装輪走行も可能なBT-42。無邪気で天真爛漫なふるまいは、周囲の人を魅了します。

TYPE H

みんなを巻き込むムードメーカー

KV-2



あなたは152ミリの巨大な主砲で、派手な炎上が得意なKV-2。独自のタイミングで発言し、不思議な説得力でみんなを巻き込んでいくパワフルさが魅力です。

TYPE I

ミステリアスで隙のないキレ者

Mk.II歩兵戦車マチルダIIMk.III/IV



味方の歩兵を重装甲で守りきったマチルダII歩兵戦車は、「戦場の女王」とも呼ばれた名車輌。ミステリアスなキレ者で、信頼した人を裏切らない忠実さはあなたそのもの!

TYPE J

我が道を貫く媚びない個性派

特二式内火艇(カミ)



あなたは水陸両用戦車として開発された特二式内火艇。周囲に媚びず硬派な一方、人が驚くようなギャップも持ち合わせています。奇襲作戦で、恋も勉強もうまくいくかも!

月刊戦車道 別冊 第41回冬季無限軌道杯 大特集号2

企画
杉山 潔
鳥居 玲

制作
大竹亮輔

宣伝
日高雄大
伊藤 梓

編集・執筆
鈴木貴昭
石井 誠

執筆・編集協力
国本康文
梅本 弘
宮永忠将
吉川和篤
岡部いさく
丹羽和夫
田村尚也
稲谷富美夫
モリナガ・ヨウ

写真提供
グランドパワー(ガリレオ出版)

取材・制作協力
原田さつき
米田政行(Gyahun工房)
福島崇仁(日本忍者協議会)
森 由利亜(早稲田大学 文学学術院)
山田悠介(麻布 香雅堂)
神 みよ子
伊藤由美子
近藤悠喜
佐々木俊宏(プリンツ21)

カバー・本文デザイン
原田美穂(OverDriveDesign)
浜岡弘臣(OverDriveDesign)
前田幸江(OverDriveDesign)
泉原厚子(OverDriveDesign)

協力
アクタス
博報堂DYミュージック&ピクチャーズ

発行日 2022年3月25日
発行人 清水博之
発行所 株式会社バンダイナムコアーツ
〒150-0013
東京都渋谷区恵比寿1-18-14 恵比寿ファーストスクエア

印刷所 株式会社テンプリント

【お問い合わせ先】
バンダイナムコアーツ お客様センター
TEL:03-5828-7582
(受付時間 10:00~17:00 土・日・祝日・年末年始を除く)

[公式HP]www.bandainamcoarts.co.jp

TU-1024

Printed in Japan

ガールズ&パンツァー
GIRLS und PANZER
月刊 戦車道 特別編集　月刊 戦車道 別冊
第41回 冬季無限軌道杯 大特集号2
●発行：財団法人 日本戦車道連盟 Tel.1000-100-5050
●編集：月刊戦車道 編集部
●発売・販売元：株式会社バンダイナムコアーツ
TU-1024

